



# **BIZ CARD PRO**

## **名刺定義ツール 操作ガイド**

DTF Ver.5



# 目次

## Part.1 基本操作

<b>1. ツールボックスと部品の種類 .....</b>	<b>- 4 -</b>
<b>2. 定義の作成について.....</b>	<b>- 7 -</b>
2-①. ファイルを開く.....	- 7 -
2-②. 用紙・字取りの設定 .....	- 7 -
2-③. 部品の生成.....	- 8 -
2-④. 部品の選択.....	- 9 -
2-⑤. 部品の移動.....	- 9 -
2-⑥. 部品のサイズを変える .....	- 10 -
2-⑦. 部品をコピーする.....	- 10 -
2-⑧. 文字列部品、図形部品の固定／可変を変更する .....	- 10 -
2-⑨. 部品ウインドウを見る .....	- 10 -
2-⑩. 保存.....	- 10 -
2-⑪. 部品の属性.....	- 11 -
A). 「部品」属性.....	- 11 -
B). 「位置／サイズ」属性.....	- 14 -
C). 「色」属性.....	- 18 -
D). 「文字」属性 .....	- 19 -
E). 「DB 項目」属性.....	- 21 -
F). 「罫線」属性 .....	- 22 -
G). 「ピクチャー」属性.....	- 23 -
<b>3. その他 .....</b>	<b>- 24 -</b>
3-①. 上層（下層）へ移動 .....	- 24 -
3-②. 配置.....	- 24 -
3-③. ブロック化.....	- 24 -
3-④. 子属性の編集 .....	- 24 -
3-⑤. ブロックのみ削除 .....	- 24 -
3-⑥. 相対部品の選択 .....	- 25 -
3-⑦. 表示倍率 .....	- 25 -
3-⑧. グリッド .....	- 25 -
3-⑨. 下地イメージ .....	- 26 -
3-⑩. サイズの登録.....	- 27 -

## Part.2 応用編

<b>4. レイアウト作成の手順 .....</b>	<b>- 28 -</b>
4-①. 名刺デザインの確認ポイント.....	- 28 -
4-②. 用語の説明.....	- 28 -

<b>5. 名刺レイアウト作成の準備</b> .....	<b>- 29 -</b>
<b>6. 定義作成のポイント</b> .....	<b>- 30 -</b>
6-①. 固定文字列部品と可変文字列部品の配置方法 .....	- 30 -
6-②. ブロック部品の配置方法 .....	- 31 -
6-③. “だるま落とし”の配置方法 .....	- 34 -
6-④. センター揃えの配置方法 .....	- 36 -

### Part.3 実践編

<b>7. 名刺パターンの作成</b> .....	<b>- 39 -</b>
7-①. “だるま落とし”を利用した定義の作例 .....	- 39 -
7-②. センター合わせと“だるま落とし”を利用した定義の作例 .....	- 52 -

### Part.4 よくある質問

<b>8. ページ</b> .....	<b>- 60 -</b>
8-①. グリッドの活用 .....	- 60 -
<b>9. 文字</b> .....	<b>- 61 -</b>
9-①. 字取りを設定する.....	- 61 -
9-②. 長体・平体を設定する .....	- 61 -
9-②. 両端均等にする .....	- 62 -
9-⑤. ベースラインを設定する .....	- 62 -
<b>10. 画像</b> .....	<b>- 63 -</b>
10-①. 固有イメージの活用 .....	- 63 -
<b>11. 部品</b> .....	<b>- 64 -</b>
11-①. 野線ツールでラインを描画する.....	- 64 -
11-②. 同一パターン内で画像部品が重なった場合の設定方法 .....	- 66 -
11-③. ブロック使用時の注意点.....	- 67 -
A). ブロックのサイズを固定する場合.....	- 67 -
B). ブロックを使用して姓名・ルビを配置する場合 .....	- 67 -
C). ブロック内部品 基準点の設定 .....	- 68 -
<b>12. その他</b> .....	<b>- 69 -</b>
12-①. 姓名が長すぎてレイアウトが崩れてしまう場合 .....	- 69 -
12-②. 部品の位置が規定よりもずれてしまう場合 .....	- 70 -
12-③. 画像にだるま落としを設定する方法.....	- 72 -
12-④. サイズ固定時にだるま落としを設定する方法 .....	- 75 -
12-⑤. 縦型名刺の数字を縦書きで表示させる。 .....	- 78 -

**DTF とは…**

BizCard Pro（名刺制作システム）において、原稿データを入力するだけで「名刺」を自動的に作成するための定義ツールです。

DTF では、テキストやロゴのレイアウトを定義することにより、名刺の基本となるパターンを作成します。

部品には「固定文字列」「可変文字列」「罫線」「図形」「ブロック」があり、これらを「名刺の用紙」上にマウスを使って自由に配置します。

「可変文字列部品」は、データ項目との関連付けを行うことにより、実際の名刺情報（部署名／姓名等）と置き換わります。

可変部品は入力情報の有無を判別し、自動的に位置を詰めて指定したレイアウトを保つことができます。定義さえちゃんと作成していれば、美しいレイアウトでも自動的に大量作成することが可能になります。

## Part.1 基本操作

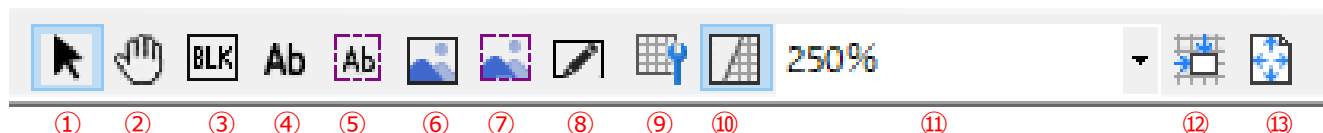
### 1. ツールボックスと部品の種類

#### ページ

レイアウトの下地となる部品です。名刺の紙にあたります。

属性の種類は以下のとおりです。

・「ページ」属性



① **部品選択ツール**……マウス操作で部品を選択します。移動や編集等を行う際に「選択」されている必要があります。

② **ドラッグでページスクロールツール**……ドラッグすることで、画面をスクロールさせることができます。  
画面を拡大しているときなどに便利な機能です。

③ **ブロックツール** ……ブロック部品を生成します。  
内部に部品を配置できる特殊な部品です。編集時は薄緑色の矩形で表示されます。  
属性の種類は以下のとおりです。  
・「部品」属性  
・「位置／サイズ」属性

④ **固定文字列ツール** ……固定文字列を生成します。  
名刺情報のデータベース（以下 DB）とリンクさせない静的な文字を配置するための部品です。  
「TEL」「FAX」「〒」等のように DB に関係なく表示させる文字列を配置します。  
属性の種類は以下のとおりです。  
・「部品」属性  
・「位置／サイズ」属性  
・「色」属性  
・「文字」属性

※「TEL」「FAX」「〒」等は**可変部品の接頭文字列でも設定できます。**

⑤ **可変文字列ツール** ……可変文字列部品を生成します。データ項目が挿入されます。  
DB とリンクさせて動的な文字を配置するための部品です。  
「企業名」「住所」「電話番号」等のように DB で入力された文字列を配置します。  
属性の種類は以下のとおりです。  
・「部品」属性  
・「位置／サイズ」属性  
・「色」属性  
・「文字」属性  
・「DB 項目」属性

- ⑥ **固定図形ツール** ……固定図形部品を生成します。ロゴ等の画像に使用します。

DB とリンクさせない静的なイメージファイルを配置する部品です。

固定イメージ部品とも言い、ロゴ等の各名刺に共通したイメージファイルを貼り付ける場合に使用します。

属性の種類は以下のとおりです。

- ・「部品」属性
- ・「位置／サイズ」属性
- ・「ピクチャー」属性

- ⑦ **可変図形ツール** ……可変図形部品を生成します。ロゴ等の画像に使用します。

DB とリンクさせて動的なイメージファイルを配置する部品です。

選択イメージ部品とも言い、各名刺で選択可能なロゴや顔写真等のイメージファイルを貼り付ける場合に使用します。

属性の種類は以下のとおりです。

- ・「部品」属性
- ・「位置／サイズ」属性
- ・「ピクチャー」属性
- ・「DB 項目」属性

- ⑧ **罫線ツール** ……罫線や長方形部品を生成します。

矩形もしくは直線（水平／垂直）を配置する静的な部品です。

属性の種類は以下のとおりです。

- ・「部品」属性
- ・「位置／サイズ」属性
- ・「色」属性
- ・「罫線」属性

- ⑨ **グリッド設定ボタン** ……グリッドの設定のダイアログが表示されます。

- ⑩ **グリッド表示切替ボタン** ……グリッドの表示／非表示を切り替えます。

- ⑪ **表示倍率ウインドウ** ……表示倍率が表示されます。

- ⑫ **グリッドスナップボタン** ……部品をグリッドに合わせる／合わせないを切り替えます。

- ⑬ **ページをウインドウサイズに合わせるボタン** ……開いているウインドウサイズにページサイズを調整して表示します。

## 画像ファイルの種類



### 固定図形部品使用

#### ■固定イメージ（使用個数制限なし/あまり多いと読み込みに時間がかかります）

DTF の固定図形部品で設定しているイメージファイル

使用例…会社名・会社ロゴ等、名刺に必ず印刷する必要のある画像



### 可変図形部品使用

#### ■可変イメージ（1 パターンにつき 10 個まで設定可）

実際には印刷されないが、WEB のプレビュー画面において、便宜上表示させるためのイメージファイル

使用例…先刷り台紙がある場合・名刺編集の際の注意喚起を表示させたい場合など

※可変イメージのファイル名には命名規則があります。正しいファイル名でない場合、表示されませんので画像書出・保存の際はご注意ください。また、ファイル形式は必ず jpg 形式としてください。

命名規則…『logo\_ロゴ項目（イメージ 1～10 の数字部分）\_企業 ID\_表裏（表面=0/裏面=1）\_WEB パターン ID.jpg』

（例：logo\_2\_3\_0\_5.jpg…ロゴ項目 - イメージ 2 を使用/企業 ID - 3/表裏 - 0（表面）

WEB パターン ID - 5）

#### ■選択イメージ（1 パターンにつき 4 個まで設定可）

複数のイメージから選択して表示させたり、表示/非表示をユーザーが選択することが出来るイメージファイル

使用例…ISO マーク・資格ロゴ・P マーク・くるみんマークなど

#### ■固有イメージ（1 パターンにつき 1 個のみ設定可）

社員番号をイメージファイル名に命名することで、社員番号と紐づけられて表示されるイメージファイル

使用例…顔写真や外字氏名など

※固有イメージのファイル名には命名規則があります。正しいファイル名でない場合、表示されませんので画像書出・保存の際はご注意ください。

命名規則…『社員番号.jpg』（例：社員番号「30020」→ 30020.jpg）

## 2. 定義の作成について

### 2-①. ファイルを開く

#### ・新しくファイルを開く（起動時には新規ファイルを開きます）

「ファイル」メニューの「新規作成」を選択します。

新しい編集ウィンドウが表示されます。これからこのウィンドウ内にレイアウトを作成します。

#### ・既存のファイルを開く

「ファイル」メニューの「開く」から既存の DTF ファイルを選択します。

編集ウィンドウが開き、保存されているレイアウトがウィンドウ内に表示されます。

### 2-②. 用紙・字取りの設定

名刺のサイズ／用紙方向を設定します。

ウィンドウ内の下地の部分をクリックし、部品が何も選択されていない状態にします。

ページ

用紙のサイズ [名刺]:[91]×[55]

用紙の方向 横方向

氏名の字取り 0  
(字取り設定無しの場合は0を指定)

OK キャンセル

下地の部分をダブルクリック、もしくは右クリックで「属性の編集」を選択することで、この画面が表示されます。

編集メニューの「属性の編集」を選択します。

用紙のサイズ： 「名刺」（91mm×55mm）がデフォルトの設定になります。

異なるサイズのレイアウトを作成したい場合は、ツールメニューの「サイズ情報」で登録が可能です。

登録したサイズは「用紙サイズ」ドロップダウンリストに表示されます。

用紙の方向： 用紙の「横方向」又は「縦方向」を選択します。

氏名の字取り： BizCard Pro で設定した字取りパターン ID を入力します。

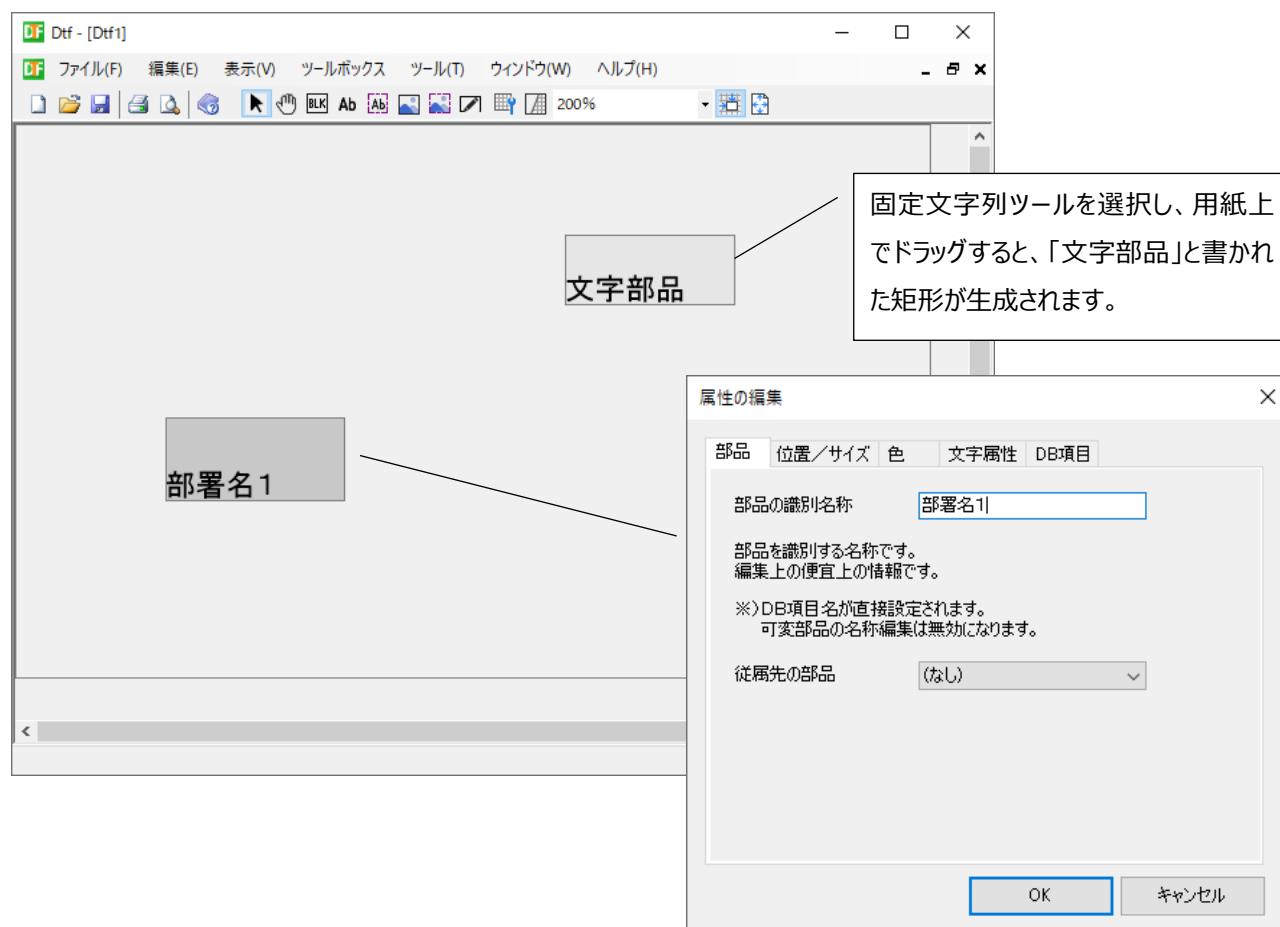
姓名の文字列が、字取り設定に基づいて配置されます。

詳細は「字取りのルールについて」を参照下さい。



## 2-③. 部品の生成

部品を生成／配置します。



1

基本  
操作

同様にして可変文字列ツールを選択してドラッグすると、今度は「属性の編集」が表示されます。

DB 項目を指定すると、その項目名が仮の文字列として表示された矩形が生成されます。

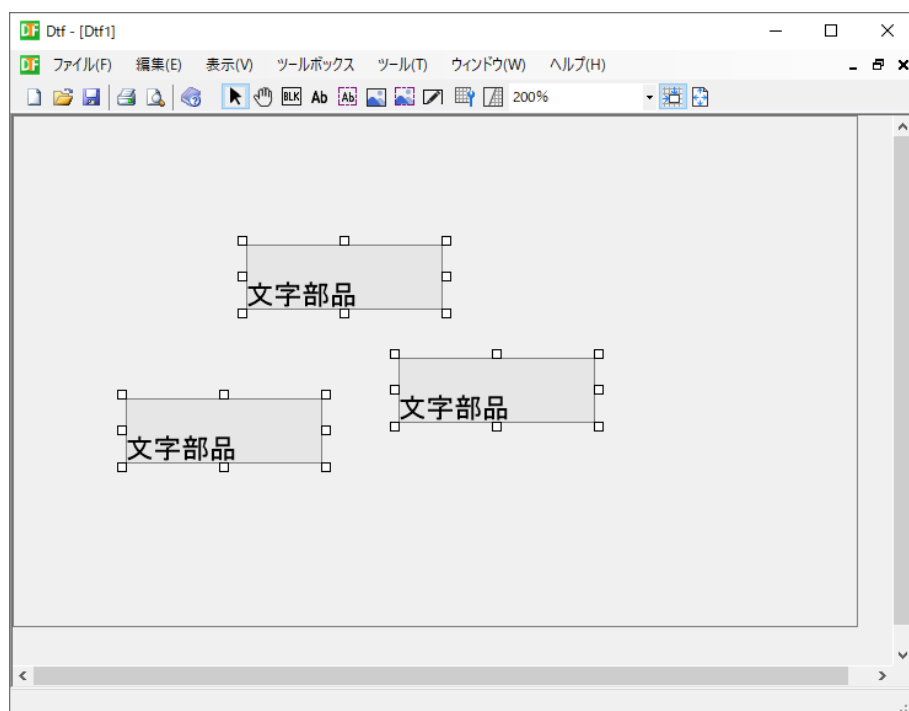
各部品は矩形の背景色で固定／可変の区別をつけることができます。

- ・薄いグレーの部品：固定部品
- ・濃いグレーの部品：可変部品

## 2-④. 部品の選択

部品の選択には「単数選択」と「複数選択」があります。部品は、クリックもしくはドラッグ（一部分だけで可）で選択することができます。

「単数選択」とは部品を 1 つだけ選択することです。部品選択ツール（矢印マーク）で目的の部品をクリックします。周りに小矩形（リサイズハンドル）が付きます。これが部品を選択している状態です。



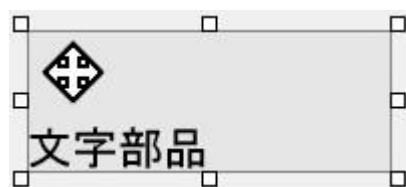
「複数選択」は複数の部品をまとめて選択することです。

部品の移動や削除は、複数選択を利用すると一度に効率よく編集することができます。

選択部品を追加する場合は、Shift キーを押しながら該当部品をクリックします。また、複数選択中の一部を選択解除する時も同様に行います。（交互に切り替わります）

## 2-⑤. 部品の移動

### ・マウスによる操作



選択中の部品上にカーソルを重ねると、上下左右の矢印に切り替わるので、その状態で目的の場所までドラッグします。

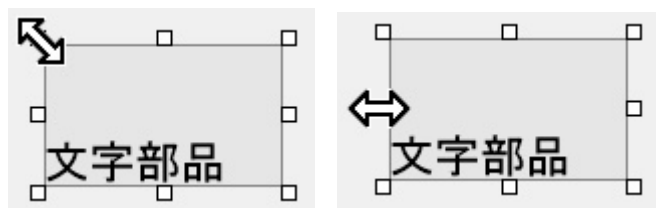
### ・矢印キーによる操作

部品の選択中は、矢印キーを押すことで移動させることができます。

1 押しの移動量は、「グリッド設定」で指定している値になります。

## 2-⑥. 部品のサイズを変える

### マウスによる操作



リサイズハンドルにカーソルを重ね、上図のようなリサイズカーソルになるので、目的のサイズまでドラッグします。

※ 部品のサイズは複数選択されている状態でも変更可能です。

### 属性編集による操作

詳細は「属性の編集」ページを参照下さい。

※ 大まかな部品の位置やサイズをマウスにて編集し、微調整を属性画面で行うと効率的です。

## 2-⑦. 部品をコピーする

同じような設定の部品を作る場合、「部品のコピー」機能を使うと便利です。

コピーする部品を選択し、Ctrl キーを押しながらコピーしたい位置までドラッグします。

又はショートカットキー「Ctrl + C」 + 「Ctrl + V」で部品を複数することができます。

### 注意

「部品のコピー」では、「対応 DB 項目」等コピーされない属性があります。  
コピー後に属性の内容を確認／設定して下さい。

## 2-⑧. 文字列部品、図形部品の固定／可変を変更する

**「可変部品」から「固定部品」に変更する場合：**可変部品を選択し、編集メニューより「固定部品に変換」を選択します。

**「固定部品」から「可変部品」に変更する場合：**固定部品を選択して、編集メニューより「可変部品に変換」を選択します。

※ 部品を選択後、右クリックのメニューから選択することもできます。

## 2-⑨. 部品ウインドウを見る

部品の一覧を表示する場合、表示メニューより「部品ウインドウ」を選択します。

部品ウインドウ内の部品名をダブルクリックすると、その部品が選択された状態となります。

## 2-⑩. 保存

ファイルメニューの「名前を付けて保存...」を選択し、BizCard Pro がインストールされているフォルダ内の「Pattern」フォルダに適切な名前を付けて保存します。正しく保存できれば、拡張子「.DTF」のファイルが生成されます。

「閉じる」を選択すると、開いている DTF ファイルを閉じます。

保存されていればそのまま閉じ、保存されていない場合は、確認ウインドウが表示されます。

「はい」をクリックすると現在のファイル名で保存され、ファイルを閉じます。

## 2-⑪. 部品の属性

部品の位置やサイズは部品の属性の一部です。

属性を編集する場合、部品を選択して編集メニューの「属性の編集」を選択します。部品を複数選択すれば、まとめて編集することができます。

右クリック→「属性の編集」でも属性を編集することができます。（単数選択の場合は部品をダブルクリックで編集できます。）

### A). 「部品」属性

属性の編集

部品 位置／サイズ 色 文字属性

部品の識別名称

部品を識別する名称です。  
編集上の便宜上の情報です。

※DB項目名が直接設定されます。  
可変部品の名称編集は無効になります。

従属先の部品

OK キャンセル

#### 部品の識別名称

部品を識別するための名称です。

可変部品は DB 項目がそのまま識別名称になります。（変更不可）

相対部品や従属先の部品を選択する際に、この名称で指定します。

固定部品は識別名称（STSTRING 等）が自動入力されるため、分かりやすい名称に変えておくと便利です。

1 つの定義ファイル内に同じ名称の部品を複数作ることはいけません。

部品コピー等で同じ名称が複数作成されると、自動的に枝番号が割り振られます。

従属先の部品

「従属先の部品」で設定した項目にデータが入力された場合のみ表示されるように指定します。

**例 1)** 固定部品「E-mail」の従属先部品を「E-Mail 1」（可変部品）に指定すると、  
「E-Mail 1」項目の入力がない時は、固定部品「E-mail」も出力されません。

(固定部品) (可変部品) 「E-Mail 1」

<入力がある場合>

E-mail	xxxx@asys.co.jp
--------	-----------------

<入力がない場合>

--	--

**例 2)** 「E-Mail 1」（可変部品）に接頭文字列“E-mail: ”（コロン+半角スペース含む）を指定。

(可変部品) 接頭文字列「E-mail: 」+「E-Mail 1 」

<入力がある場合>

E-mail: xxxx@asys.co.jp

<入力がない場合>

例 1 と 2 は類似していますが、例 1 は別の部品で構成されるため、以下のような特徴があります。

- ・ フォントの種類やサイズ等の属性及び DB とのリンクが別途指定できるため、デザインの幅が広がります。  
ただし、設定項目も増えます。
- ・ 配置場所と対象部品の位置関係に制限がないため、上下や離れた位置にも配置することができます。

例 3) 「TEL」「E-mail」等を並べた場合の位置揃え

TEL	03-1234-5678	TEL	
FAX	03-9876-5432		03-1234-5678
E-mail	xxxx@asys.co.jp	FAX	
			03-9876-5432
		E-mail	
			xxxx@asys.co.jp

## B)。「位置／サイズ」属性

(部品の位置／サイズについて)

## 1

## 基本操作

**相 対 部 品**：相対座標の基点になる部品を指定します。初期値はページ部品が相対部品になります。

**相 対 部 品 の 基 点**：相対部品のどの位置を起点にするかを指定します。

横（幅）方向は「左／中央／右」、縦（高さ）方向は「上／中間／下」から選択します。

**基 準 点**：配置する部品自身の基準点を指定します。

横（幅）方向は「左／中央／右」、縦（高さ）方向は「上／中間／下」から選択します。

**位 置**：「相対部品の基点」と部品自身の「基準点」との距離を指定します。

右／下方向を+（プラス）、左／上方向を-（マイナス）の座標系で指定します。

最小単位は「0.01mm」です。

**サ イ ズ**：部品のサイズをミリメートル単位で指定します。

サイズには「固定」（「自動」のチェックを外す）と「自動」があります。

「固定」： 入力されるデータの長さに関わらず、部品サイズを固定します。

文字を両端均等で配置する場合は固定にしておきます。

部品サイズを超えて文字が入力された場合は、固定サイズを超えないよう長体（横書き時）又は平体（縦書き時）をかけて調節されます。

「自動」： 入力されたデータの長さによって、部品サイズを自動的に調節します。

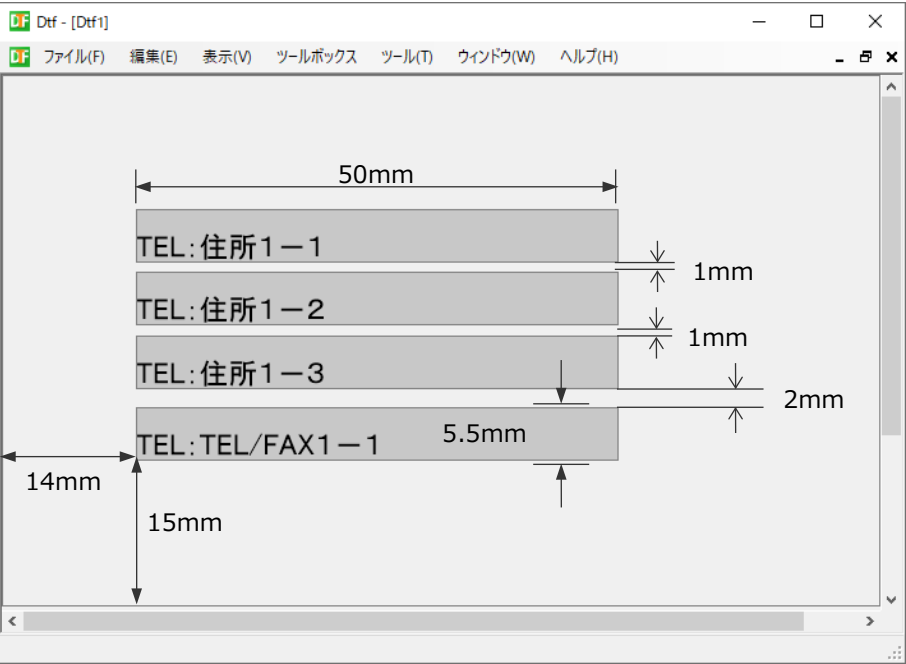
自動にする時は、設定したい方向の「自動」をチェックします。

**NULL 時の相対位置のリセット：**データが入力されなかった時に、ここで指定した値が全て 0 になり、被相対部品が詰めて配置されます。

行の上詰めや下詰め（だるま落とし※）を設定する時は必ずチェックをつけておく必要があります。（常にチェックをつけておいて問題ありません。）

※おもちゃのだるま落としのように部品が落ちていく様子から、便宜的に“だるま落とし”と呼びます。

1  
基本操作



**例）**「住所 1-1」、「住所 1-2」、「住所 1-3」、「電話番号」の順で配置する際、上記のように指定すると住所の行数が変わっても住所は電話番号のすぐ上に配置されます。

全ての部品に“だるま落とし”を指定します。

「TEL/FAX1-1」が絶対座標になります（相対部品は「ページ」）

「住所 1-3」は「TEL/FAX1-1」部品から上に 2mm（相対部品は「TEL/FAX1-1」）

「住所 1-2」は「住所 1-3」部品から上に 1mm（相対部品は「住所 1-3」）

「住所 1-1」は「住所 1-2」部品から上に 1mm（相対部品は「住所 1-2」）



※だるま落としについては P32 をご参考ください。



## 《設定のポイント》

下の項目（TEL/FAX1-1/絶対座標）から順番に設定します。

上図の場合、初めに「電話番号」部品を作成し、「①幅 50mm、②高さ 5.5mm のサイズに設定し、③ページ(相対部品)の左(相対部品の基点)から自身の左(基準点)まで 14mm(位置)、④ページの下(相対部品の基点)から自身の下(基準点)まで 15mm の場所」と設定し、上に部品を積んでいきます。

※部品のサイズを変更すると、相対部品の基点や基準点の設定によっては位置が変わってしまうことがあります。そのため、まずサイズを調整してから位置設定を行うことをお勧めしております。

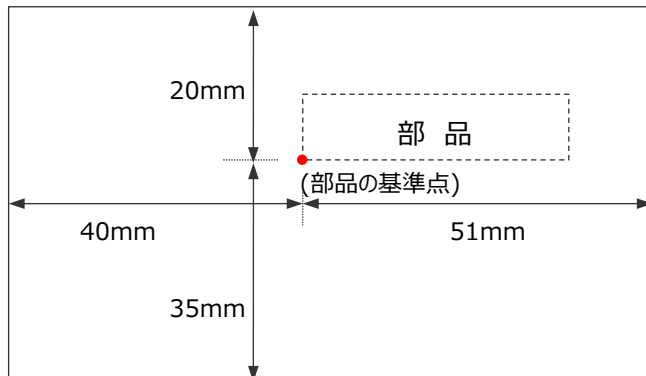
1

基本  
操作

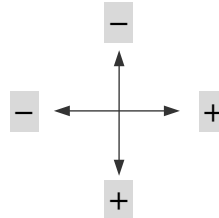
※相対部品が固定部品の場合、データの有無に関わらず表示されますので、“だるま落とし”がうまく機能しないことがあります。

## 《位置の考え方》

右／下方向が+（プラス）、左／上方向が-（マイナス）



名刺サイズ 91mm×55mm



1

基本  
操作

相対部品の基点を・・・

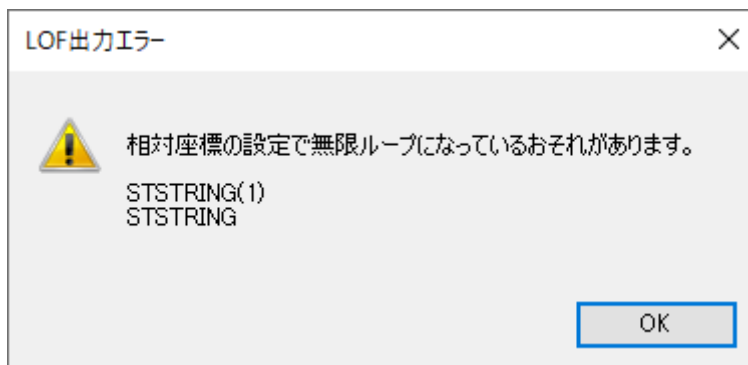
ページの左とすると、横の位置は+40mm（右とすると、横の位置は-51mm）

ページの上とすると、縦の位置は+20mm（下とすると、縦の位置は-35mm）

部品自身にも上下左右の基準点を設定することができます。

**注意**

互いを相対部品に指定し合った場合、位置を確定することができないため、正しく保存することができません。以下のようなメッセージが表示されます。



## c). 「色」属性

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性

色の設定

R  G  B

C  M  Y  K

色の選択

OK キャンセル

文字や罫線の色を「RGB」または「CMYK」で指定します。

R G B : R・G・B の値をそれぞれ 0～255 の範囲で入力します。

C M Y K : C・M・Y・K の値をそれぞれ 0～100 の範囲で入力します。

※RGB/CMYK のどちらかを編集すれば、併せて他方の値が変化します。

色の選択 : 「色の設定」ウインドウを表示し、色を確認しながら指定します。

希望の色を選択して「OK」ボタンをクリックすると、RGB 値が自動入力されます。

**注意**

最終的に出力される色味は、CMYK 値が基準になります。

1

基本  
操作

## D) .「文字」属性

## フォントの種類

和 文： ひらがな／漢字／カタカナ／全角英数字を入力した時の書体を指定します。

欧 文： 半角のアルファベット、記号を入力した時の書体を指定します。

数 字： 半角の数字、ドット、カンマを入力した時の書体を指定します。

組 合 せ： BizCard Pro の「フォント設定」にて作成した組合せを指定します。

1 つの部品に入力された文字（和文／欧文／数字）に応じて、別々のフォントを一度に指定することができます。

サ イ ズ： 文字のサイズを 0.1～50mm の範囲で指定します。

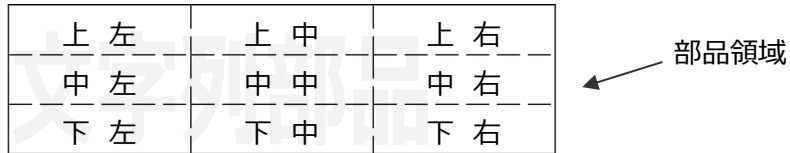
和文／欧文／数字に別々のサイズを指定することもできます。

最上段のテキストボックスに数値を入力し、 をクリックすると全書体に同じサイズが適用されます。

**ベースライン：**文字のベースラインからの高さを-50～50mm の範囲で指定します。  
和文／欧文／数字に別々の値を指定することもできます。

**文字列の配置：**部品の領域（矩形）内のどの位置に配置するかを指定します。  
上中下×左中右の 9 点から選択します。

※サイズ自動の場合はデータの文字数幅にサイズ調整されるため、反映が確認できない場合があります。



**文字方向：**文字の組方向を「横組み／縦組み」から指定します。

**接頭文字列：**「文字列」の前に静的に付加される文字列を指定します。  
例） 「TEL」「〒」「E-mail：」

**文字列（可変）：**文字列を指定します。  
「固定部品」の場合はそのまま名刺に出力されます。  
「可変部品」の場合は DB で入力されている文字列に置き換わります。

**接尾文字列：**「文字列」の後ろに静的に付加される文字列を指定します。  
例） 「（ダイヤルイン）」「（代表）」

**文字の配置：**「ノーマル」：「文字列の配置」位置から文字を流し込みます。  
「両端均等」：部品サイズの両端まで均等間隔に文字を流し込みます。  
（「位置／サイズ」属性 サイズの自動チェックボックスが外れている場合有効）

**文字間隔：**文字の間隔を-100～100mm の範囲で指定します。  
「文字の配置」で「ノーマル」が選択されている場合に有効です。

**変形（長平体）：**「長体」又は「平体」を 0～99%の範囲で指定します。※詳しくは「9-②.よくある質問」をご参考ください。  
例） 長体：30%にすると、横が 30%短くなる＝縦長  
平体：30%にすると、縦が 30%短くなる＝横長

### E). 「DB 項目」属性

属性の編集

部品 位置／サイズ 色 文字属性 DB項目

対応DB項目

- 企業名
- 組織名
- 部署名1
- 部署名2
- 部署名3
- 役職名1
- 役職名2
- 資格名1
- 資格名2
- 氏名(姓)
- 氏名(名)
- ルビ(姓)
- ルビ(名)
- 携帯電話1
- 携帯電話2
- 携帯電話3
- パン通ID
- E-Mail1
- E-Mail2
- E-Mail3
- URL
- ボイスMailNo
- 社員番号
- 住居番号1

# 1

## 基本操作

「可変部品」「可変図形」部品に割り当てられる DB の項目を指定します。

DB 項目のリストから選択して下さい。すでに他の部品で選択されている項目はリストには表示されません。ここで対応付けした DB 項目名が部品の識別名称となります。

※ 〒局番号、〒町域番号について

DB 項目として、「郵便番号 1～3」以外に「〒局番号 1～3」と「〒町域番号 1～3」があります。主に以下のようなレイアウトで使います。

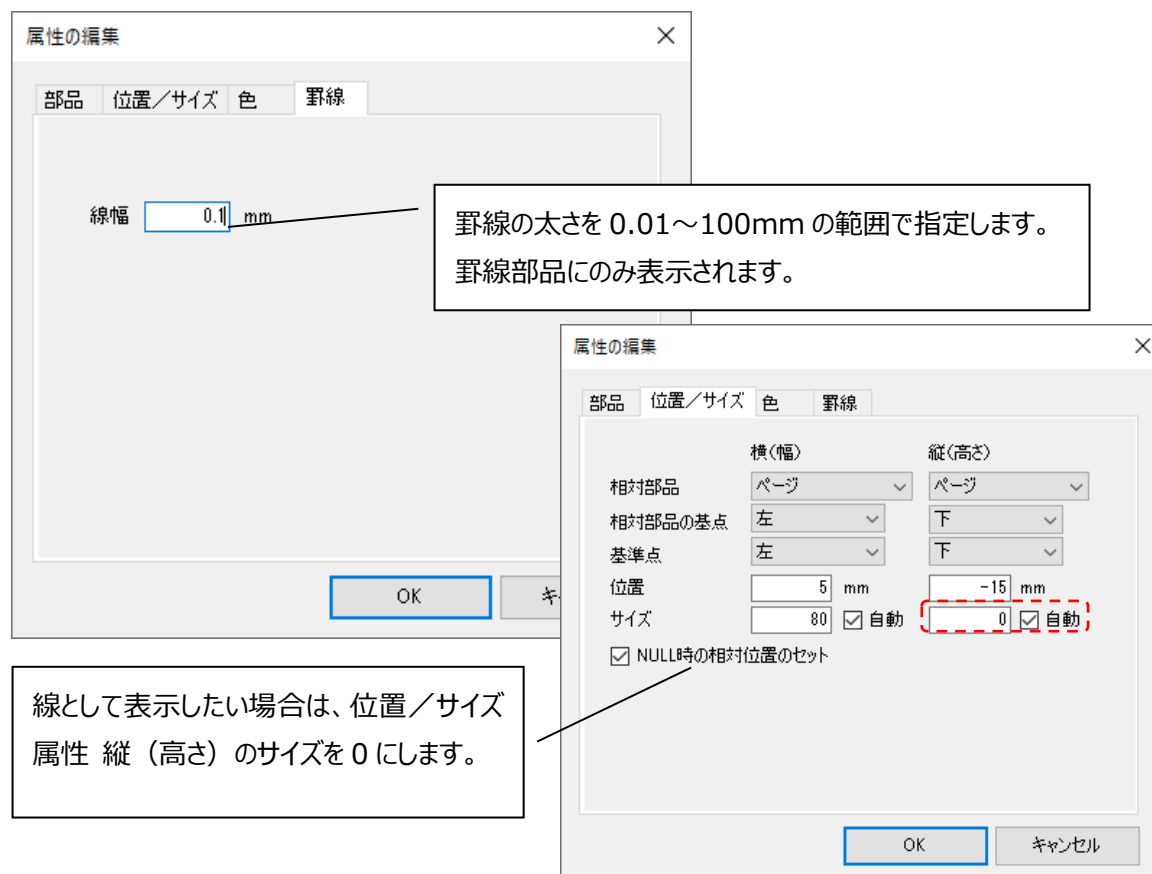
例 A)            141  
                     |  
                     0032



〒局番号      ⇒      上 3 桁  
〒町域番号    ⇒      下 4 桁

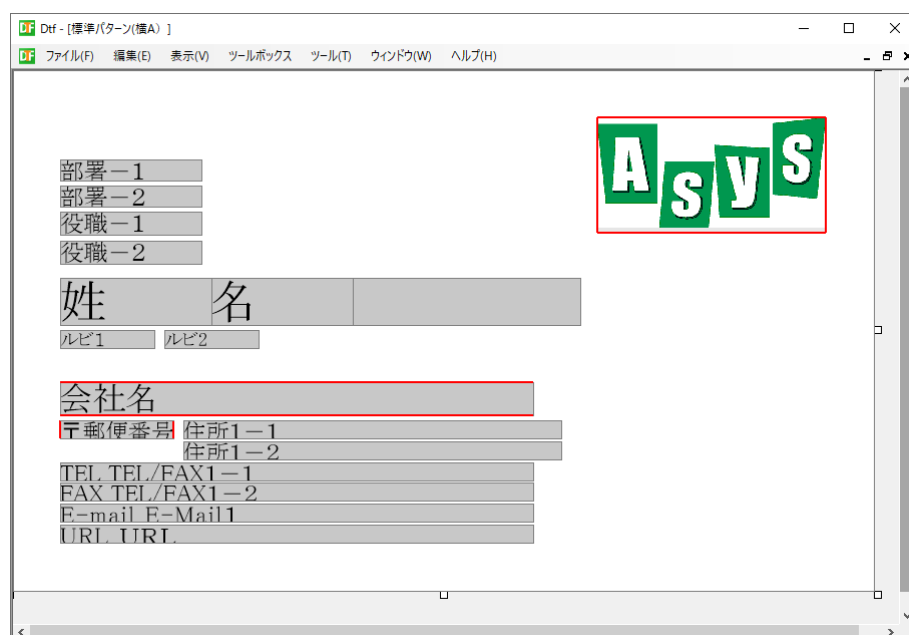
「000-0000」という形式で入力されると、半角ハイフンを判別して局番と町域番号に自動振り分けします。

## F) 「罫線」属性



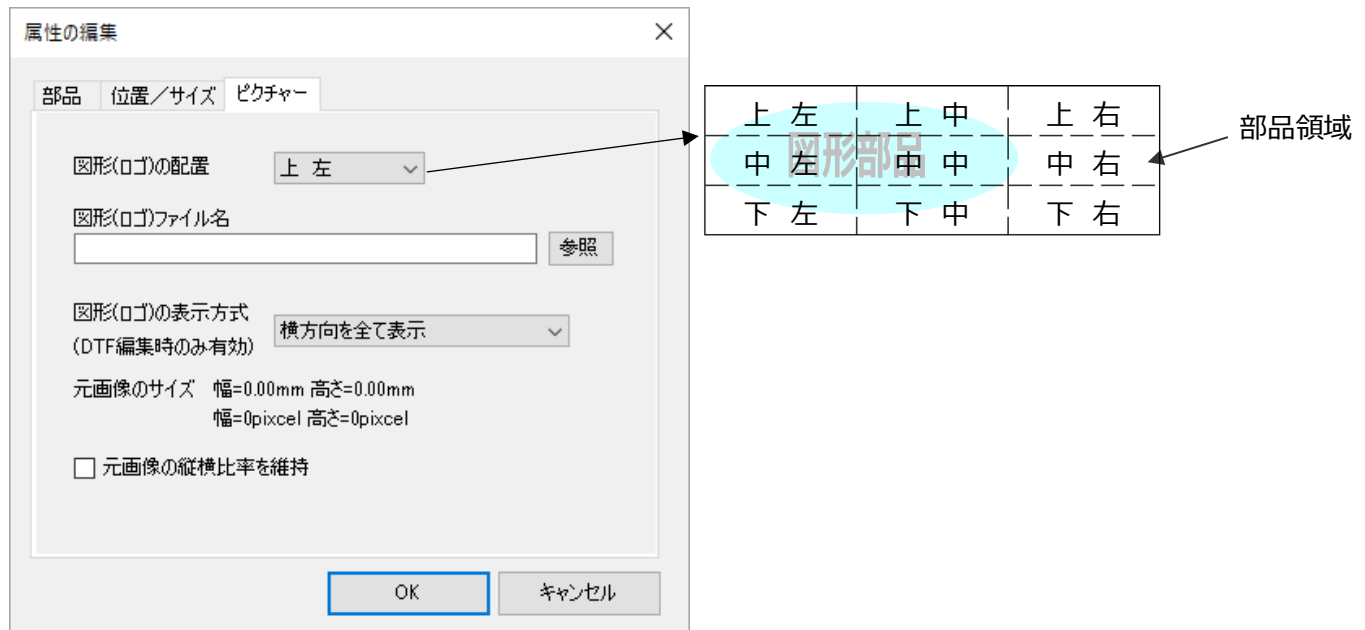
1

基本  
操作



※出力時の位置確認をする場合は、BizCard Pro 出力画面内の『名刺枠線出力』にチェックを入れておくと容易になります。

## G). 「ピクチャー」属性



1

基本操作

**図形(ロゴ)の配置：** 部品領域内のどの位置に図形を配置するかを指定します。上中下×左中右の9点から選択します。

**図形(ロゴ)ファイル名：** 「固定図形部品」の場合は、ここで指定したファイルが、固定イメージとして貼り付けられます。  
「可変図形部品」の場合は、DTF 上に表示されるのみで、DB に入力されているイメージに置き換わります。  
JPG、TIFF 形式の画像を配置することができます。

**図形(ロゴ)の表示方式：** DTF 編集時のみ表示される画像の表示方法です。

- ・元の画像サイズで表示
- ・エリア（部品領域）にあわせて全て表示
- ・横方向／縦方向を全て表示

**元画像のサイズ：** 「固定図形部品」の場合、画面上での図形サイズ（mm）が表示されます。  
印刷サイズとは異なりますので、画像サイズの参考値として参照下さい。

**元画像の縦横比率を維持：** 元画像の縦横比率を維持したい場合はチェックを入れます。

※ **名刺にロゴを配置する場合の部品サイズの設定について**

サイズ自動の場合： 画像ファイルの持つサイズ・解像度で出力されます。

サイズ固定の場合： 部品サイズに縮小／拡大されて出力されます。

**注意**

サイズ自動の場合は【位置／サイズ】の基準点から画像ファイルの持つサイズで表示されます。



### 3. その他

#### 3-①. 上層（下層）へ移動

対象の部品を選択して、編集メニューの「上層（下層）へ移動」を選択します。

部品を右クリックしても同じメニューを表示させることができます。

複数選択した場合は、選択順がそのまま上下の順番になります。

多数の部品を“だるま落とし”に利用する等、部品同士が重なって目的の部品を選択できない場合、上面にある部品を選択し「下層へ移動」させます。

#### 注意

項目の参照が複雑になってくると、ごくまれに正しく動作しないことがあります。その場合は、相対部品を「上層へ移動」させるか自身を「下層へ移動」させて下さい。

#### 3-②. 配置

複数部品の位置を揃えます。

対象の部品を複数選択し、編集メニューの「配置」より該当の項目を選択します。

選択できるのは [ 右揃え / 左揃え / 上揃え / 下揃え / 等間隔（横） / 等間隔（縦） ] の 6 種類です。

部品を右クリックしても同じメニューを表示させることができます。

#### 3-③. ブロック化

複数部品をまとめてブロックに入れることができます。

対象の部品を複数選択し、編集メニューの「ブロック化」を選択します。

部品を右クリックしても同じメニューを表示させることができます。

#### 3-④. 子属性の編集

ブロック内に配置されている複数部品をまとめて編集することができます。

編集対象が配置されているブロックを選択し、編集メニューの「子属性の編集」を選択することで編集ができます。

部品を右クリックしても同じメニューを表示させることができます。

#### 3-⑤. ブロックのみ削除

ブロック内に配置されている部品はそのままに、ブロックのみ削除することができます。

削除したいブロックを選択し、編集メニューの「ブロックのみ削除」を選択することで、ブロック部分を削除することができます。

部品を右クリックしても同じメニューを表示させることができます。

### 3-⑥. 相対部品の選択

選択した部品に対して相対設定している部品を、まとめて選択することができます。

まとめて選択したい部品の基準になる部品（だるま落としであれば基準位置の部品）を選択し、編集メニューの「相対部品の選択」より該当の項目を選択します。

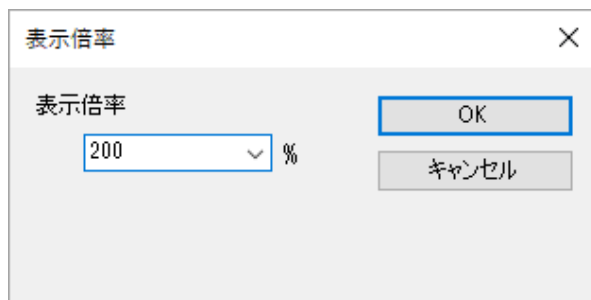
選択できるのは [ 全てを選択 / 縦方向のみを選択 / 横方向のみを選択 ] の 3 種類です。

部品を右クリックしても同じメニューを表示させることができます。

### 3-⑦. 表示倍率

表示倍率は直接数値を入力してもリストから選択することもできます。

100%に設定すると、実寸サイズで表示されます。(ディスプレイの設定によって表示サイズは異なります。)



### 3-⑧. グリッド

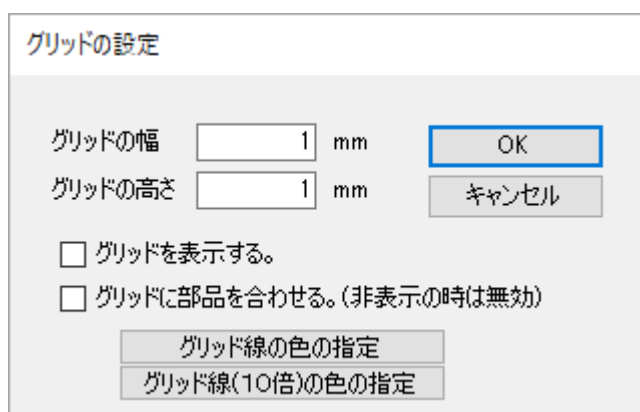
用紙内に指定した間隔・色でグリッドを表示させることができます。

表示メニューの「グリッドの表示」を選択すると上の画面が表示されます。

グリッド色は主線（指定幅の 10 倍）と副線（指定幅）の 2 色を指定することができます。

これにより座標をより認識し易くなります。ここでの設定は、次回アプリケーション起動時にも反映されます。

矢印キーでの部品の移動単位は、ここで指定したグリッドの幅及び高さとなります。



**グリッドの幅：** 横方向の間隔を 0.01～100mm の範囲で指定します。

**グリッドの高さ：** 縦方向の間隔を 0.01～100mm の範囲で指定します。

**グリッドを表示する：** 表示させる場合はチェックを入れます。

**グリッドに部品をあわせる：** 部品の配置をグリッドに部品を合わせる場合はチェックを入れます。

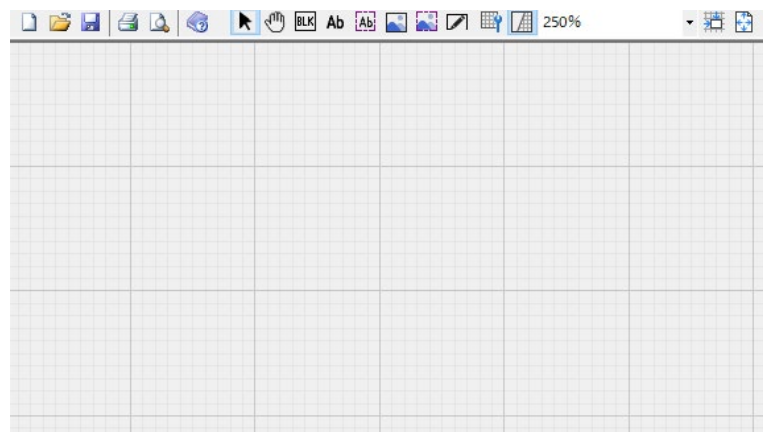
グリッドが表示されている場合のみ有効です。

※ **選択された部品は、位置及びサイズがグリッド設定された単位に強制変換されます。**

例えば、グリッドの間隔を 1mm に設定すると、「位置／サイズ」共に小数点以下が四捨五入された値になります。

**グリッド線の色の設定：** 副線の色を指定します。

**グリッド線(10 倍)の色の設定：** 主線（副線 10 本分）の色を指定します。



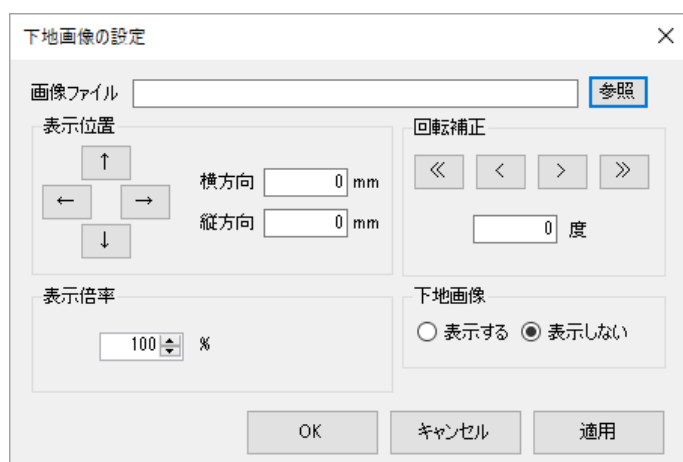
← 主線（濃いグレー）

← 副線（薄いグレー）

### 3-⑨. 下地イメージ

既に紙や他のアプリケーション等でレイアウトがあり、それが画像化されていれば、「下地イメージ」機能を使って下敷きに利用することができます。

名刺をスキャナで取り込み、ファイルに保存（JPG、BMP、TIFF、PNG 形式）しておきます。



表示メニューから「下地イメージの表示」を選択します。

「参照」ボタンをクリックし、取り込んだ画像ファイルを指定します。

下地画像の「表示する」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。

用紙枠と画像が合わない場合は、表示位置／回転補正／表示倍率を調整して下さい。

「適用」ボタンをクリックすると、表示を確認しながら調整することができます。

### 3-⑩. サイズの登録

**サイズ一覧**

名称	幅	高さ
名刺	91.00mm	55.00mm
5	150.00mm	150.00mm
縦	55.00mm	91.00mm
12345	240.00mm	332.00mm

追加 閉じる

**サイズの追加**

サイズの名称

幅  mm

高さ  mm

用紙は、横長になるように設定してください。  
注意)登録したものは、削除できません。

OK キャンセル

一般的な名刺のサイズは 91mm×55mm で、あらかじめ登録されていますが、その他のサイズで作成することもできます。

ツールメニューの「サイズ情報」をクリックすると、「サイズ一覧」が表示されます。

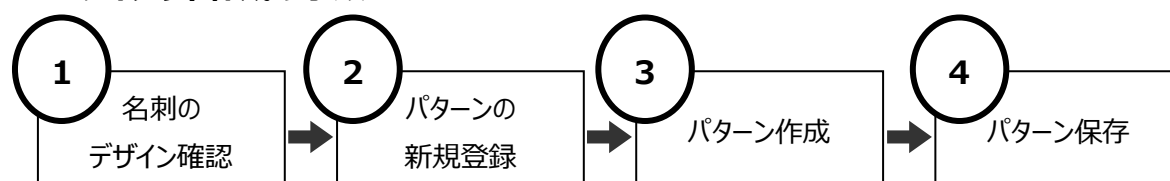
「追加」ボタンをクリックすると、「サイズの追加」画面が表示されます。

「サイズ名称」と用紙の「幅／高さ」を入力して、「OK」ボタンをクリックすると新規追加します。

※ 変換と削除をできませんので、ご注意ください。

## Part.2 応用編

### 4. レイアウト作成の手順



#### 4-①. 名刺デザインの確認ポイント

##### (1). 全体のレイアウト

- a) 名刺の種類とサイズ：基本は横 91mm、縦 55mm です
- b) 姓名の字取りルール：姓名の文字数によってどのように文字間隔が変化するか
- c) 住所、電話番号等の各部品の位置：横位置は名刺の左端から〇〇mm 等
- d) 各部品の配置ルール：可変項目に入力がない時、周辺の部品はどのように変化するか  
(だるま落とし、センター揃え等)

##### (2). 文字の書体／サイズ／色

##### (3). ロゴの有無

#### 4-②. 用語の説明

##### 固定文字列部品

制作システムの DB とリンクしていない静的な文字を配置する部品です。

「TEL」「FAX」等、文字属性で入力した文字列をそのまま配置します。

##### 可変文字列部品

制作システムの DB とリンクしている動的な文字を配置する部品です。

「部署名」「住所」「電話番号」等、BizCard Pro／WEB で入力された文字列を配置します。

##### 絶対座標

用紙を基準とした位置のことです。

相対部品を「ページ」に指定すると、他の部品に影響されことなく、指定した位置に配置されます。

##### 相対座標

任意の部品を基準とした位置のことです。

「ページ以外」のものを相対部品に指定します。他の部品との位置関係のみ指定するため、基準となる部品によって配置される位置が変化します。

##### 従属先の部品

従属先の部品に文字データが入力された場合のみ表示することを指定します。

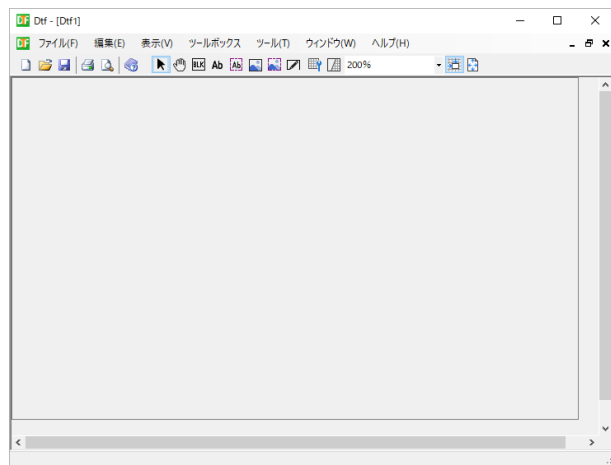
#### だるま落とし（NULL 時の相対位置のリセット）※「6-③.“だるま落とし”の配置方法」参照

データが入力されなかった場合、位置設定が全て 0 になり、被相対部品が詰めて配置されます。

## 5. 名刺レイアウト作成の準備

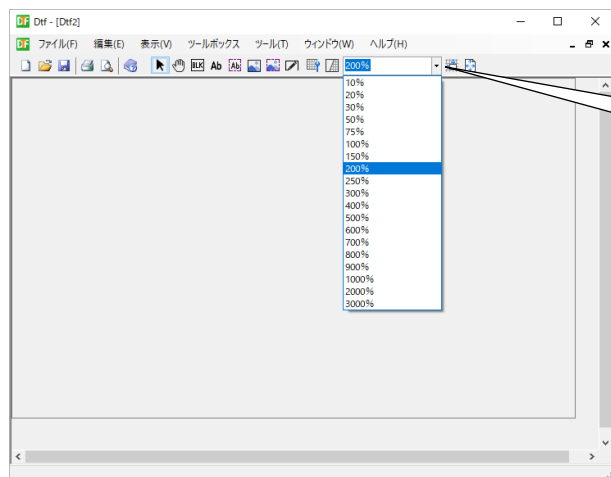
定義を作成する前に自分にあった編集時の表示機能を設定してみましょう。

### 《新規ファイルを開く》



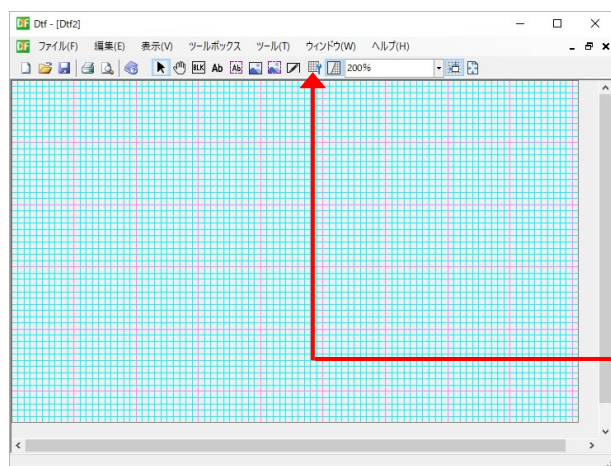
DTFを起動すると、新規ファイルの画面が開きます。  
新たにファイルを開く時はメニューから[ファイル]→  
[新規作成]を選択します。

### 《表示倍率》



編集する際の表示倍率を指定します(初期表示：  
250%)。使いやすい倍率で編集しましょう。

### 《グリッド》



間隔／グリッド線の色等を自由に設定できる方眼  
状の線です。部品の位置がわかりやすくなります。  
また、こちらで指定したグリッドの「幅」及び「高さ」が  
カーソルキーにて移動させる時の単位となります。

**グリッドの設定**

グリッドの幅  mm

グリッドの高さ  mm

☐ グリッドを表示する。

☐ グリッドに部品を合わせる。(非表示の時は無効)

## 6. 定義作成のポイント

### 6-①. 固定文字列部品と可変文字列部品の配置方法

必ず出力することが決まっている文字項目は「固定文字列部品」を使用します。

(「企業名」や「TEL」「FAX」等のタイトル、住所部分等)

人によって出力する内容が変わる文字項目は、「可変文字列部品」を使用します。

固定文字列部品と可変文字列部品をうまく組合せると、原稿データの入力項目を少なくすることができ、効率よく名刺を作成することができます。

#### 例題 1) 本社と支店を併記する定義

東京支店専用の定義を作成する場合は、本社情報及び支店住所を固定部品とします。

可変文字列部品を最小限にして、原稿データの入力項目を減らします。

#### 《部品配置のポイント》

東京支店の電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス（実線で囲んである部分）は各人で異なるため、可変文字列部品にします。その他は共通事項なので、固定文字列部品にします。

#### 《原稿データの入力》

「支店の電話番号」 = (03) 5436-9014  
 「支店の FAX 番号」 = (03) 5436-9015  
 「E-mail アドレス」 = meishi-taro@asys.co.jp

#### 出力形式

東京支店 東京都品川区大崎 1-20-8 INOビル 5F 〒141-0032  
 TEL. (03) 5436-9014 FAX. (03) 5436-9015  
 本 社 東京都豊島区東池袋 3-22-7 〒170-0013  
 TEL. (03) 5396-7571 FAX. (03) 5396-3877  
 E-mail: meishi-taro@asys.co.jp  
 URL: http://www.asys.co.jp

### ※ 可変文字列部品のサイズについて

可変文字列部品はデータによって入力されるデータの長さが変わります。

その為、用途によってサイズ設定を調整する必要があります。

- ・**入力データによってサイズを変更させる** … 自動のチェックが付いた状態にします。(初期設定は ON になっています)
- ・**入力サイズを固定する** … 自動のチェックを外します。データが設定サイズを超える場合は自動で長平体がかかります。
- ・**両端均等にする** … 均等にしたい範囲でサイズを固定し(自動のチェックを外す)、文字属性の文字の配列で両端均等を選択します。

### 注意

だるま落としをする場合、縦（高さ）の自動のチェックを外すと入力がない場合にアキが生じます。

## 6-②. ブロック部品の配置方法

ブロック部品は、複数の部品を 1 つにまとめる場合に使用します。

例えば、縦に並んだ部品を任意の水平位置に詰める場合や、横に並んだ部品を任意の垂直位置に詰める場合に有効です。

### 例題 2) 入力の有無にかかわらず、複数の部品を中心揃えにする定義

#### 《作成手順》

ブロック部品を配置します。

相対部品に基準となる部品（主にページ）を指定し、

ブロックの中に対象となる「部品 1」、「部品 2」、「部品 3」を配置します。

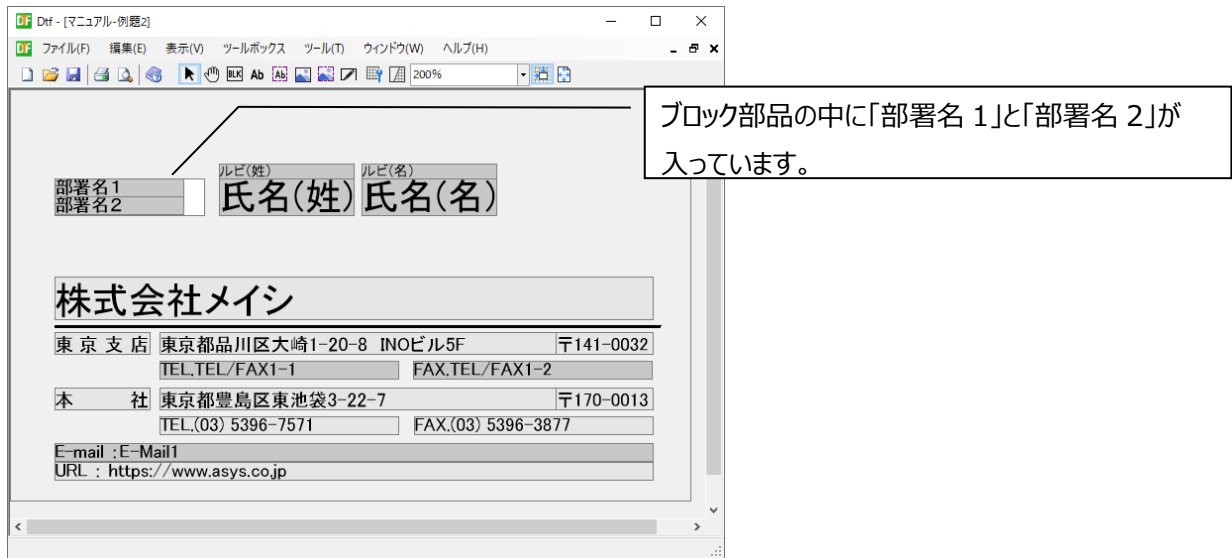
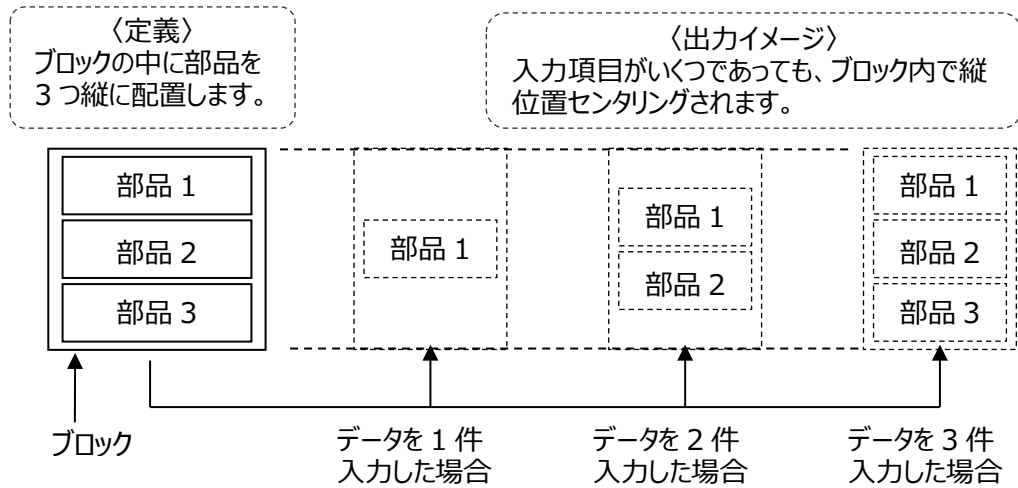
「部品 1」は相対部品を「ブロック」、基点を「左」、基準点を「左」として位置を 0mm とします。

「部品 2」の相対部品は「部品 1」とします。ブロックのサイズは「自動」とします。

なお、ブロック外にある部品をブロックに入れるには、対象部品を選択して「Shift」キーを押しながらブロック内にドロップします。

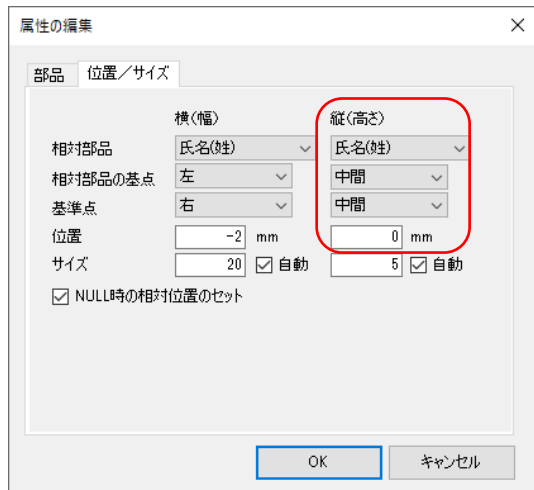
ブロックの外へ出す時も同様に、「Shift」キーを押しながらドラッグ & ドロップします。





### 《属性編集のポイント》

姓名の縦位置にセンタリングを行うので、縦（高さ）位置の属性編集がポイントになります。  
ブロック部品・縦の相対部品の基点は「氏名（姓）中間」です。基準点は「中間」、位置は「0mm」とします。  
ブロック部品のサイズは自動にします。  
部署名 1 の相対部品は「ブロック」、部署名 2 の相対部品は「部署名 1」と設定します。



例 A) 〈原稿データの入力〉ブロック内の部品 2 つに入力した場合

「姓 名」 = 名刺太郎  
「部署名 1」 = 経営企画部  
「部署名 2」 = 計画グループ

出力形式

姓名の左に部署名が 2 行並びます。

経営企画部  
計画グループ  
**名刺 太郎**

例 B) 〈原稿データの入力〉ブロック内の部品 1 つに入力した場合

「姓 名」 = 名刺太郎  
「部署名 1」 = 経営企画部

出力形式

部署名 2 にデータ入力していないため、部署名 1 が姓名の縦位置中央に配置されます。

経営企画部  
**名刺 太郎**

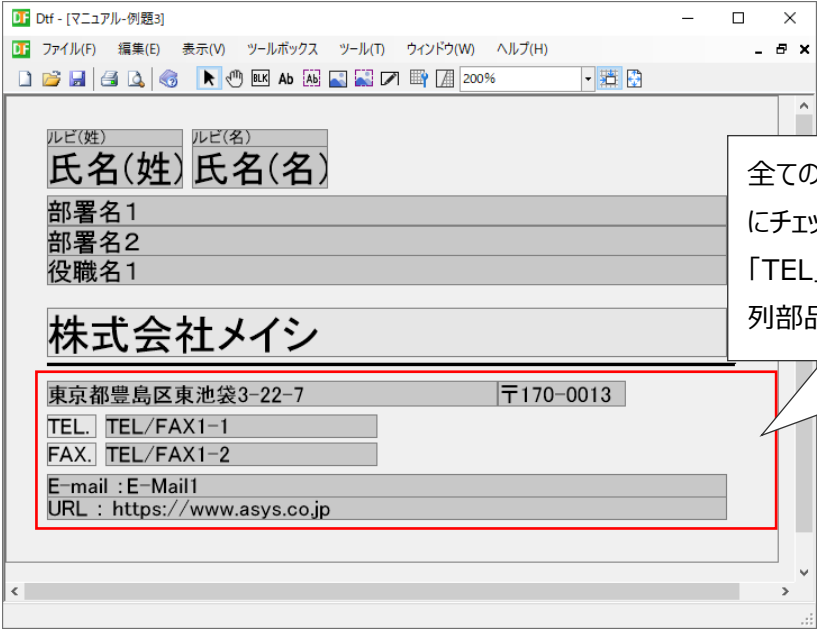


氏名・ルビをブロック部品の中に配置する場合、必ず双方を同じブロック内に入れてください。  
エラーの原因になります。

6-③. “だるま落とし”の配置方法

1つの部品を基準として、その上（又は下）に積み上げた部品を、データ入力の有無によって自動配置する定義です。  
データ入力のなかった項目は、位置情報も「なし」と見なされ、入力のある項目のみが位置を詰めて出力されます。  
だるま落としの定義を作成する場合は、基準となる部品から配置します。  
例えば「E-mail アドレス」を入れる名刺、入れない名刺等、様々なタイプの名刺を1つのパターンに集約することができます。

例題 3) ページの縦位置を基準として相対部品を積み上げる定義

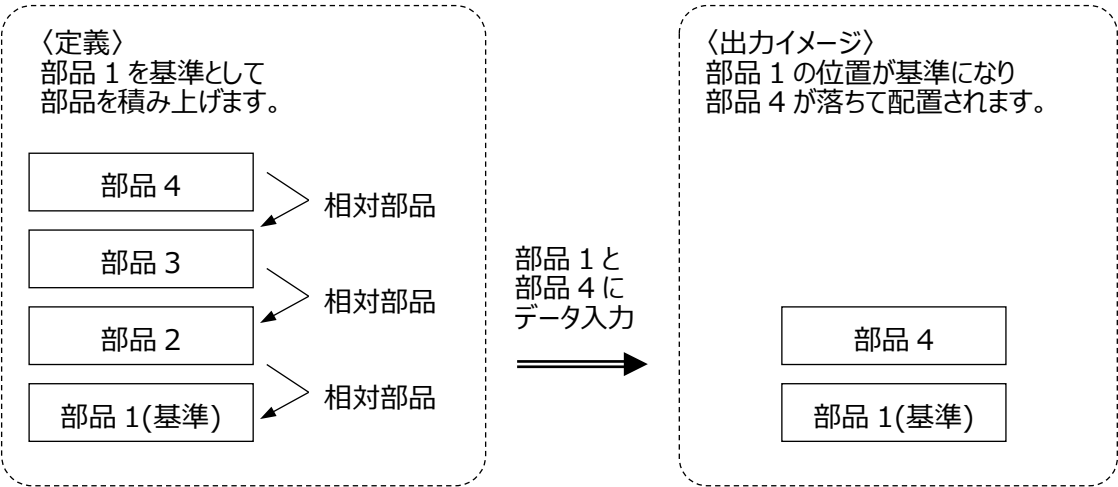


全ての部品の「NULL 時の相対位置のリセット」にチェックを入れます。  
「TEL」「FAX」固定部品は連動させる可変文字列部品を「従属先の部品」に設定します。

※従属先の部品：

従属先の部品がデータ入力された場合のみ出力する設定のことです。  
例えば、「TEL」の従属先の部品を「TEL/FAX1-1」にしておくと、「TEL/FAX1-1」に入力がない場合は「TEL」も出力されません。

《属性編集のポイント》



例 A) 下の部品を基準として揃える場合

URL を基準部品とします。

ページの左から部品の左までを 5mm、ページの下から部品の下までを-5mm に設定します。

URL の縦位置を相対部品として E-mail1 部品を配置し、他の部品（TEL/FAX1-2、TEL/FAX1-1、住所 1-1）も同様に直下の部品の縦位置を相対部品として配置します。

「郵便番号 1」 = 170-0013  
「住所 1-1」 = 東京都豊島区東池袋 3-22-7  
「TEL/FAX1-1」 = 03-5396-7571  
「TEL/FAX1-2」 = 03-5396-3877  
「E-mail1」 = meishi-taro@asys.co.jp

出力形式

基準となっている URL に入力がなかったため、  
URL の位置に合わせて各部品が落ちます。

株式会社メイシ

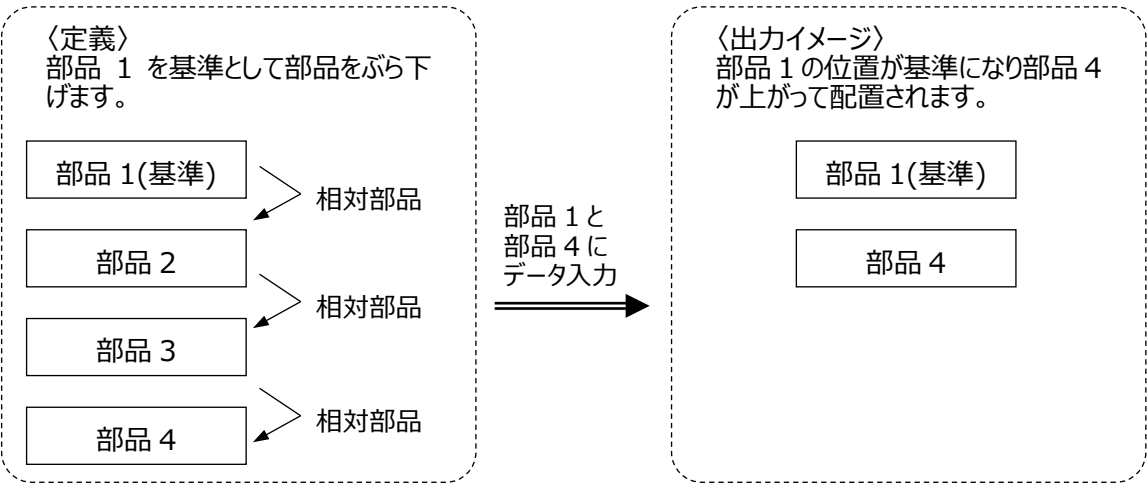
東京都豊島区東池袋 3-22-7 〒170-0013

TEL. 03-5436-9014

FAX. 03-5436-9015

5mm E-mail:meishi-taro@asys.co.jp  
5mm

《属性編集のポイント》



例 B) 上の部品を基準として揃える場合。

会社名を基準部品とします。

ページの左から部品の左までを 5mm、ページの上から部品の上までを 25mm に設定します。

会社名の縦位置を相対部品として住所 1-1 を配置し、他の部品も直上の部品の縦位置を相対部品として配置します。

「郵便番号 1」 = 170-0013  
「住所 1-1」 = 東京都豊島区東池袋 3-22-7  
「TEL/FAX1-1」 = 03-5396-7571  
「TEL/FAX1-2」 = 03-5396-3877  
「E-mail 1」 = meishi-taro@asys.co.jp

出力形式

会社名が基準になっているため、会社名に合わせて各部品が上がります。



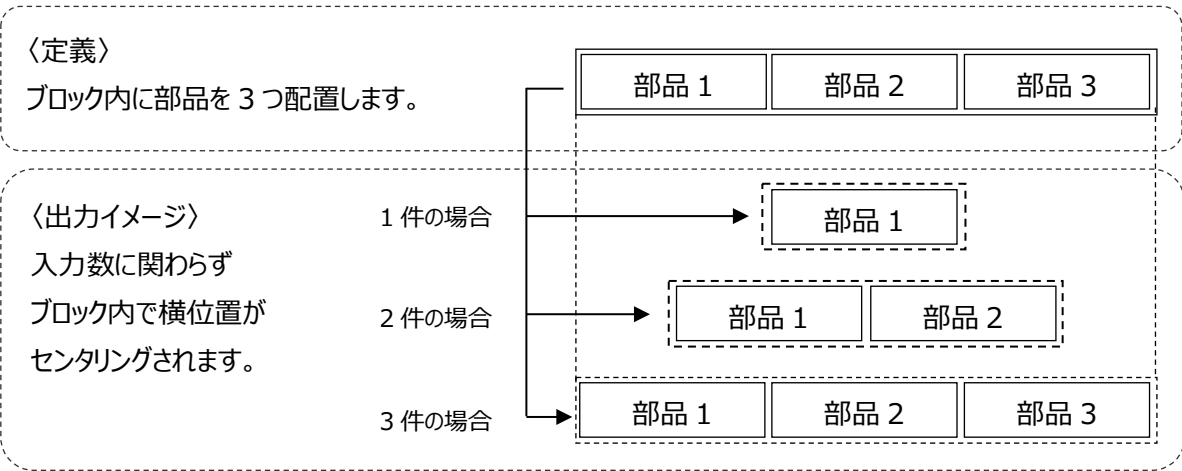
6-④. センター揃えの配置方法

全ての項目を名刺中央に揃えるパターンです。

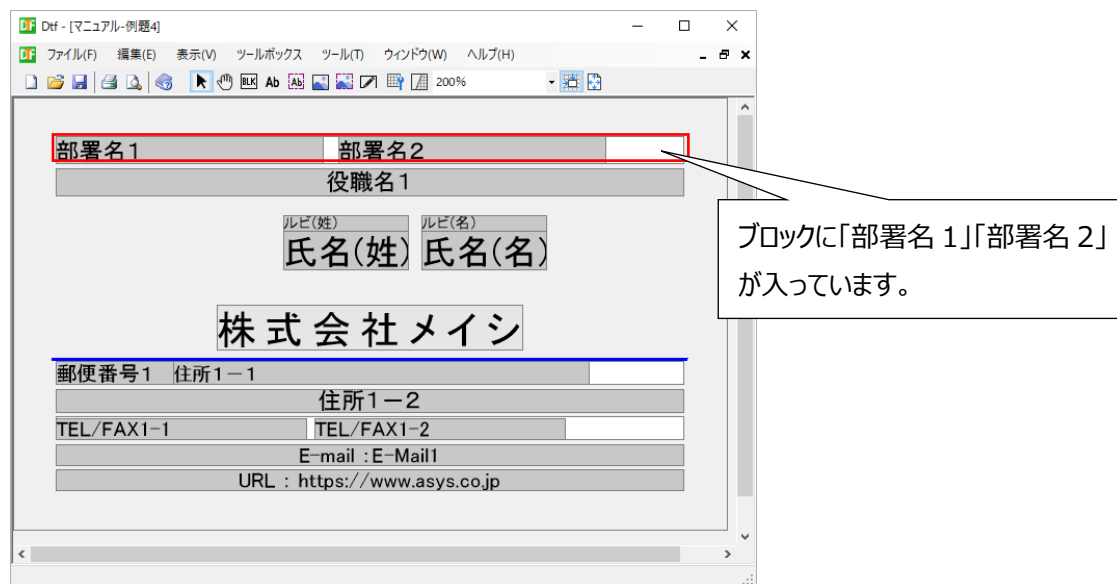
横位置の相対部品を全て「ページ」の「中央」を基点に、部品の基準点を「中央」に位置「0mm」と設定します。

複数並んだ部品をブロックに入れて、入力されたデータ数に関わらず中央に揃えて配置することもできます。

例えば、可変文字項目が 3 つあり、データが 1 つの時／2 つの時／3 つの時と、どの場合でも中央揃えにするには、ブロック部品をページの中央に配置して、その中に可変文字列部品を配置することで可能となります。



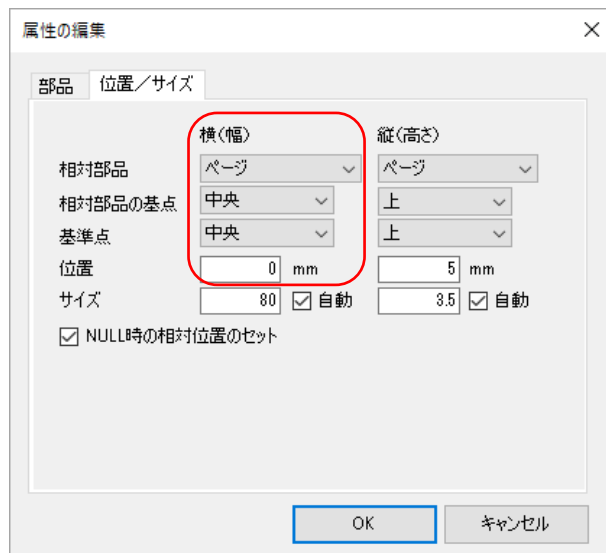
#### 例題 4) ブロック内で横に並んだ部品をひとまとまりとして、上下の項目と中央位置を揃える定義 《属性編集のポイント》



2

応用編

ページの横位置のセンタリングを行うので、横（幅）位置の属性編集がポイントになります。  
 ブロック／役職 1／姓の横の相対部品は「ページ」、基点は「中央」です。基準点は「中央」、位置は「0mm」を設定します。  
 「役職名 1」の相対部品は「姓」とします。部品が 1 つしか並ばないため、ブロック部品は使いません。  
 「部署名 1」と「部署名 2」はブロックに入れ、相対部品は「ブロック」とし、「部署名 2」の相対部品は「部署名 1」とします。  
 それぞれ、相対部品は「ページ」、基点は「中央」、基準点は「中央」、位置は「0mm」とします。



## 例 A) ブロック内の部品を 2 つ入力した場合

「姓 名」 = 名刺 太郎  
 「部署名 1」 = 情報システム部  
 「部署名 2」 = ソリューショングループ  
 「役職名 1」 = マネージャー

出力形式

ブロック部品をページの中央に合わせているため、  
 ブロック内の部品が常にセンター合わせになります。

情報システム部 ソリューショングループ  
 マネージャー  
**名刺 太郎**

2

応  
用  
編

## 例 B) 役職名 1 と部署名 2 を入力せず、ブロック内部品 1 つに入力した場合

「姓 名」 = 名刺 太郎  
 「部署名 1」 = 情報システム部

出力形式

部署名 2 にデータ入力していないため、  
 部署名 1 のみでのセンター合わせとなります。

情報システム部  
**名刺 太郎**

Part.3 実践編

7. 名刺パターンの作成

7-①. “だるま落とし”を利用した定義の作例

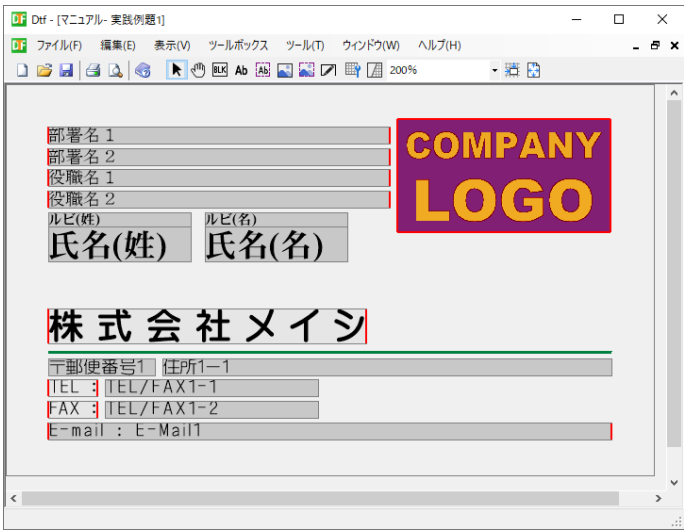
まず、名刺のデザインを確認します。

《名刺》

「E-mail」（下基準）から「会社名」まで、及び「姓」（下基準）から「部署名 1」までが相対関係にあり、途中のデータが抜けると下に落ちる、だるま落としの定義です。



《定義》



《レイアウト情報》

- ・名刺のサイズ：基本 91mm×55mm
- ・氏名の字取り：2
- ・部品の配置ルール
  - 社名より下は、「URL」の基準点「下」へだるま落とし
  - 姓より上は、「姓」の基準点「下」へだるま落とし
- ・書体

項目	書体	サイズ
姓名	明朝系	4.5mm
ルビ	明朝系	2.0mm
社名	ゴシック系	5.0mm
部署名～役職名	明朝系	2.5mm
郵便番号～住所	ゴシック系	2.5mm
TEL～E-mail	欧文系	2.7mm
- ・ロゴ有り

《入力可能項目》

- （上から）
- ・部署名 1
- ・部署名 2
- ・役職名 1
- ・役職名 2
- ・ルビ(姓)／ルビ(名)
- ・姓／名
- ・郵便番号／住所 1－1
- ・TEL/FAX1－1
- ・TEL/FAX1－2
- ・E-mail アドレス



## 《パターン作成》

## (1). 名刺の設定を行います。

ページ

用紙のサイズ [名刺] [91] × [55]

用紙の方向 横方向

氏名の字取り 2  
(字取り設定無しの場合は0を指定)

OK キャンセル

「編集」メニューから「属性の編集」を選択すると左の画面が表示されます。

ここで以下の設定を行います。

1. 用紙サイズ…「名刺」(91mm×55mm)
2. 用紙の方向…「横方向」横名刺
3. 氏名の字取り…「2」

## 3

## 実践編

## (2). 可変文字列部品「E-mail1」を配置します。

DTF - [マニアル- 実践例題1]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツールボックス ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

可変文字列

可変な文字列部品

可変文字列

「可変文字列」ツールを選択後、用紙上をドラッグして、おおよその位置に部品を配置します。

配置すると属性の編集画面が表示されますので、DB項目から設定します。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

対応DB項目 E-Mail1

対応 DB 項目に「E-mail1」を指定します。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

部品の識別名称 E-Mail1

部品を識別する名称です。  
編集上の便宜上の情報です。

※) DB項目名が直接設定されます。  
可変部品の名称編集は無効になります。

従属先の部品 (なし)

OK キャンセル

可変部品は、対応 DB 項目を指定すると自動的に部品の識別名称が設定されますので、入力する必要はありません。

※ 名称を変更しても反映されません。

この部品を基準位置とするため、相対部品を「ページ」に指定します。

サイズは横「固定」、縦「自動」にします。

「E-mail1」が入力されなかった場合、上に配置した部品が落ちる仕組みになります。

NULL 時の相対位置のリセットを必ずチェックします。  
(初期値はチェック入)

文字サイズを和文「2.5mm」、数字／欧文「2.7mm」に設定します。  
(欧文フォントは出力サイズが小さいため)

フォントを設定します。

和文：ゴシック系（ここでは丸ゴシック体）

数字／欧文：欧文系（ここでは和文と同じ）

E-Mail が入力された場合、頭に『E-Mail :』と表示されるように設定します。

文字の間隔を調整する時に使います。

### (3). 可変文字列部品「TEL/FAX1-2」を配置します。

文字属性等の設定が「E-mail1」とほとんど同じであるため、部品を複製して変更部分のみ再設定します。

「E-mail1」を選択し「Ctrl」キーを押しながら、ドラッグさせるとコピーができます。

対応 DB 項目に「TEL/FAX1-2」を指定します。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

部品の識別名称 E-Mail1(1)

部品を識別する名称です。  
編集上の便宜上の情報です。

※)DB項目名が直接設定され  
可変部品の名称編集は無効

従属先の部品 (なし)

「E-mail1」をコピーしたため、は「E-mail1 (1)」となっていますが、DB 項目を変更することで自動的に設定されます。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

部品の識別名称 TEL/FAX1-2

部品を識別する名称です。  
編集上の便宜上の情報です。

※)DB項目名が直接設定されます。  
可変部品の名称編集は無効になります。

従属先の部品 (なし)

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

横(幅) 縦(高さ)

相対部品 ページ E-Mail1

相対部品の基点 左 上

基準点 左 下

位置 14 mm -0.5 mm

サイズ 30 自動 2.5 自動

☒ NULL時の相対位置のセット

横位置の相対部品は「ページ」のまま、縦位置の相対部品を「E-Mail1」に設定します。  
E-Mail1 の「上」から、自身の「下」に「-0.5mm」と設定します。

チェックを入れたままにします。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

フォントの種類 サイズ

組み合わせ 2.5 下 ベースライン

和文 AR P丸ゴシック体M 2.5 mm 0 mm

欧文 和文と同じ 2.7 mm 0 mm

数字 和文と同じ 2.7 mm 0 mm

文字配置 下 左

文字方向 横組み

接頭文字列

文字列 TEL/FAX1-2

接尾文字列

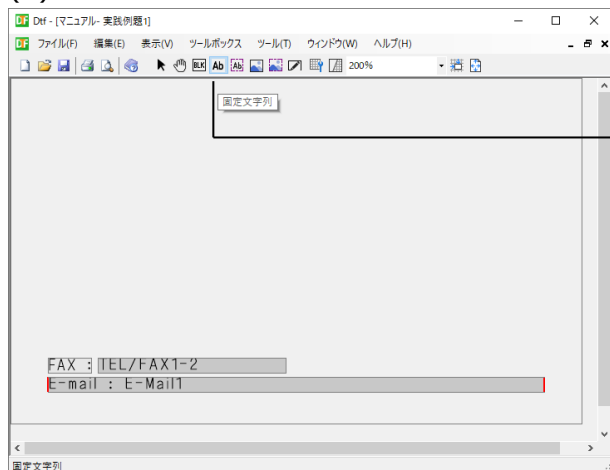
文字の配列 ノーマル 文字間隔 0.2 mm

変形(長平体) 変形なし 0 %

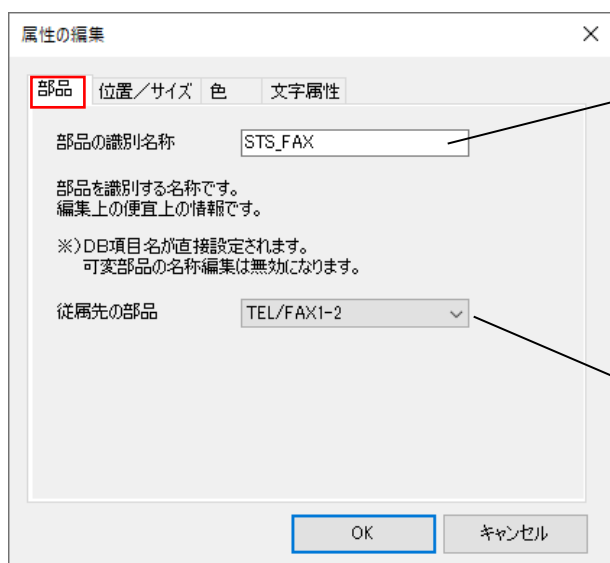
OK キャンセル

文字属性はコピー元「E-mail1」が引き継がれます。  
変更する部分のみ修正します。  
文字列には選択した DB 項目名が自動で入ります。

#### (4). 固定文字列部品「FAX」を配置します。

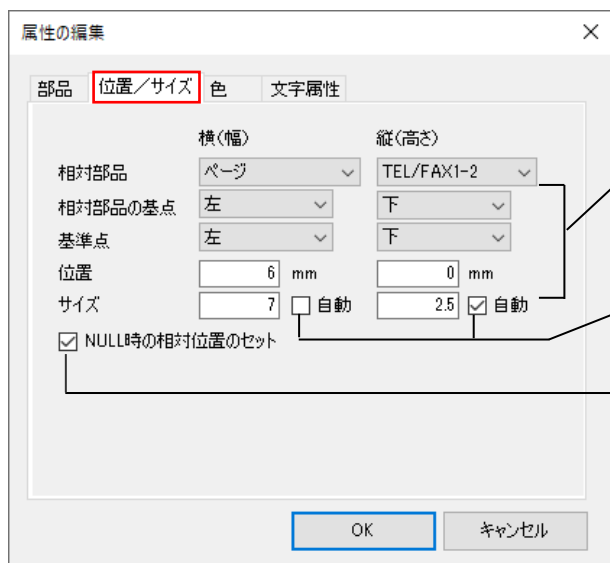


「固定文字列部品」ツールを選択後、用紙上をドラッグして、おおよその位置に部品を配置します。配置した部品をダブルクリックして、属性を編集します。



固定部品なので、「部品の識別名称」は自動的に付きません。（初期状態は「STSTRING」）  
わかりやすい名称を付けて下さい。  
ここでは「STS\_FAX」とします。

従属先の部品は、「TEL/FAX1-2」です。  
「TEL/FAX1-2」に入力がない場合、「FAX」(タイトル)も表示されません。



横位置の相対部品は「ページ」にします。  
縦位置の相対部品は「TEL/FAX1-2」に設定します。  
「TEL/FAX1-2」部品の下から、自分の下に「0mm」とすることで、部品の下位置が揃います。

サイズは横「固定」、縦「自動」にします。

チェックを入れたままにします。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 **文字属性**

フォントの種類 サイズ

組み合わせ 2.5 ↓ ベースライン

和文 AR 丸ゴシック体M 2.5 mm 0 mm

欧文 和文と同じ 2.5 mm 0 mm

数字 和文と同じ 2.5 mm 0 mm

文字配置 下 左

文字方向 横組み

接頭文字列

文字列 FAX:

接尾文字列

文字の配列 両端均等 文字間隔 0 mm

変形(長平比) 変形なし 0 %

OK キャンセル

固定文字列「FAX」を入力します。

文字の配置を「両端均等」に設定します。

3

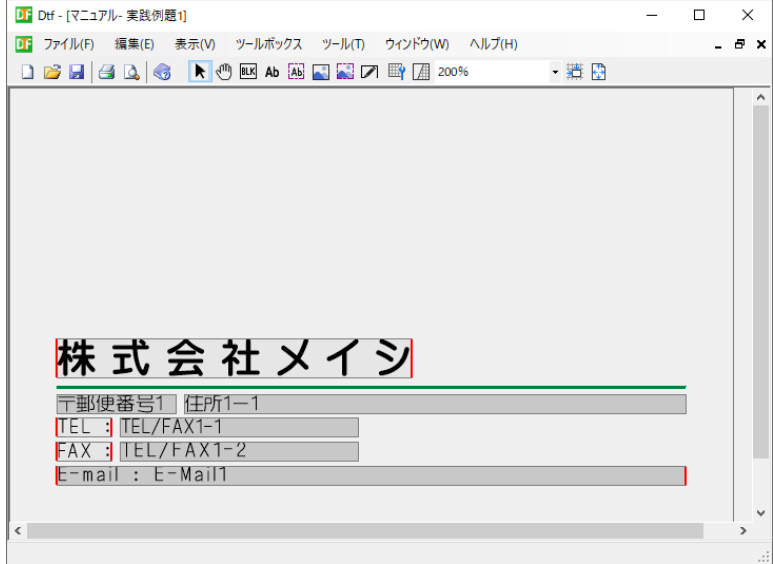
実践編

(5). 「TEL/FAX1-2」以降の部品も同様に作成していきます。

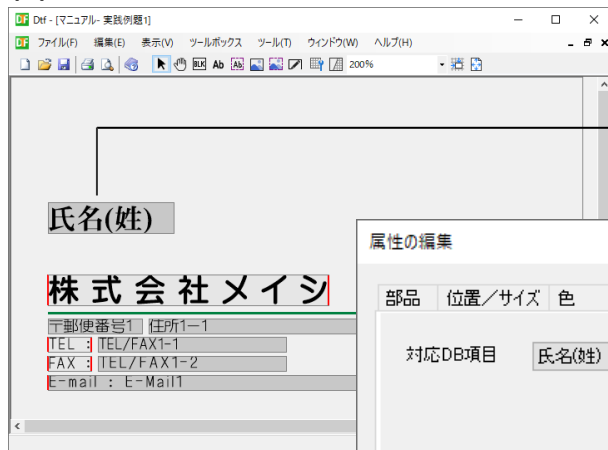
《横位置の相対部品設定》

可変文字列部品: 「TEL/FAX1-1」	相対部品: 「TEL/FAX1-2」
固定文字列部品: 「TEL」(タイトル)	相対部品: 「TEL/FAX1-1」 ※従属先「TEL/FAX1-1」
可変文字列部品: 「郵便番号 1」	相対部品: 「TEL/FAX1-1」
可変文字列部品: 「住所 1-1」	相対部品: 「TEL/FAX1-1」
罫線部品: 「k_LINE」	相対部品: 「住所 1-1」
固定文字列部品: 「会社名」	相対部品: 「k_LINE」

このように部品を積み上げる形で配置していくと、下記ようになります。



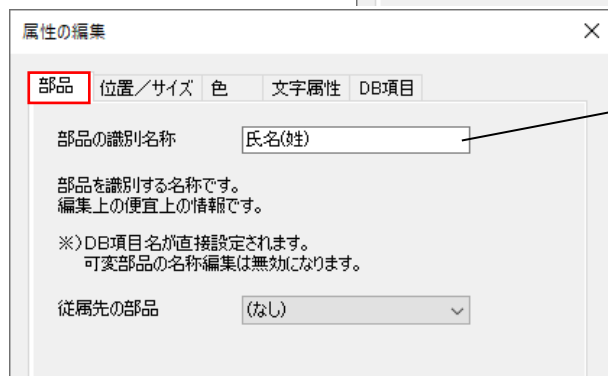
## (6). 可変文字列部品「氏名（姓）」を配置します



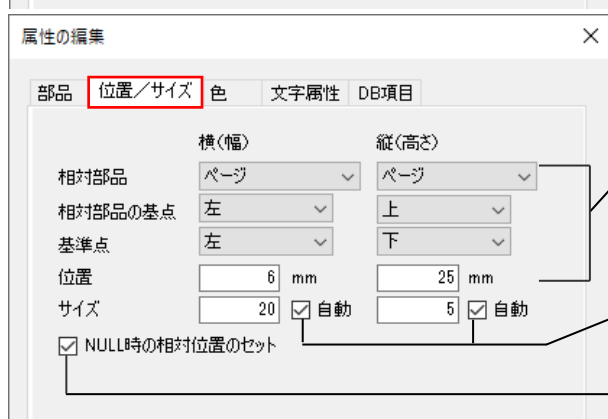
可変文字列部品「氏名（姓）」を配置します。



対応 DB 項目に「氏名（姓）」を指定します。



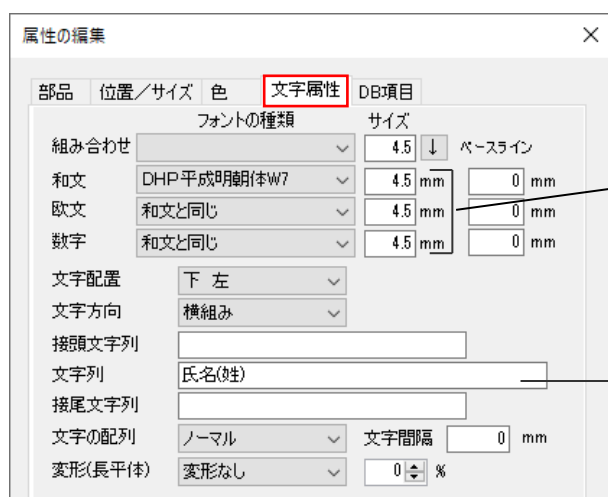
対応 DB 項目を指定すると、自動的に部品の識別名称が設定されます。



「氏名（姓）」を基準に配置するので、相対部品を「ページ」に設定します。

字取りの幅を固定しないので、サイズは「自動」に設定します。

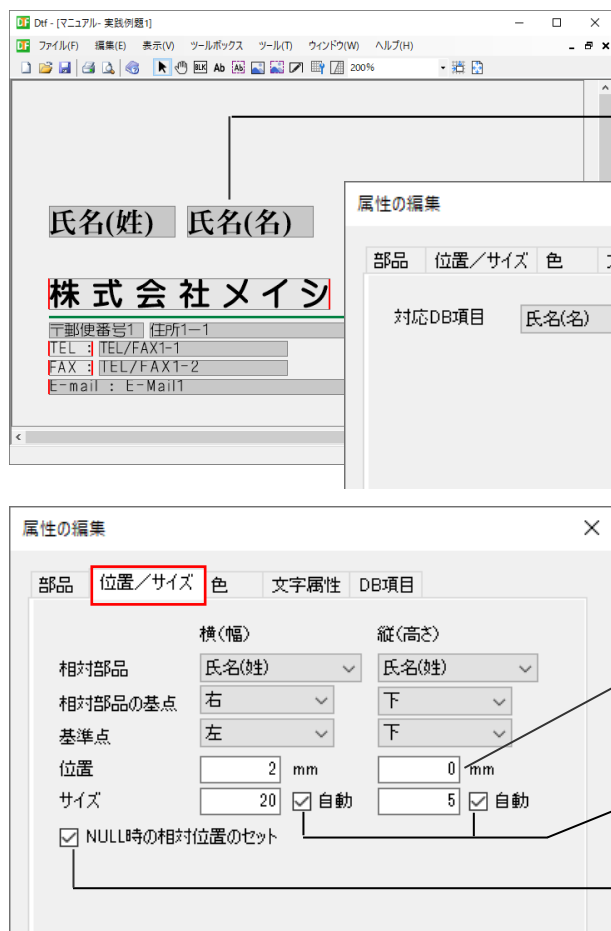
必ずチェックを入れます。



文字サイズは「4.5mm」に設定します。

可変文字列部品なのでこちらに入力した文字列は入力データと置き換わりませんが、部品の種類がわかりやすいように編集しても構いません。

## (7). 可変文字列部品「氏名（名）」部品を配置します



「氏名（姓）」部品をコピーして配置します。

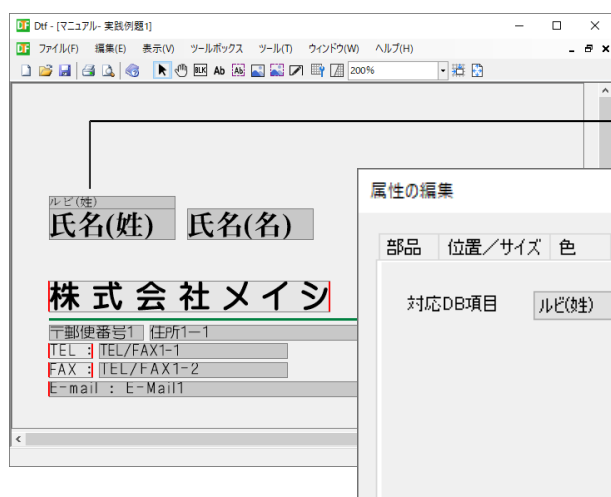
対応 DB 項目に「氏名（名）」を指定します。

姓名字取りを設定しているので、「氏名（名）」の位置情報は無効となります。  
「氏名（姓）」「氏名（名）」部品は必須項目なので必ず作成して下さい。

字取りの幅を固定しないので、サイズは「自動」に設定します。

必ずチェックを入れます。

## (8). 「ルビ（姓）」部品を配置します



可変文字列部品「ルビ（姓）」を配置します。

対応 DB 項目に「ルビ（姓）」を指定します。

相対部品を「氏名（姓）」に設定します。

字取りの幅を固定しないので、サイズは「自動」に設定します。

必ずチェックを入れます。

文字サイズは「2mm」に設定します。

可変文字列部品なのでこちらに入力した文字列は入力データと置き換わりますが、部品の種類がわかりやすいように編集しても構いません。

### (9). 「ルビ（名）」部品を配置します

「ルビ（姓）」部品をコピーして配置します。

対応 DB 項目に「ルビ（名）」を指定します。



属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

横(幅) 縦(高さ)

相対部品 氏名(名) 氏名(名)

相対部品の基点 左 上

基準点 左 下

位置 0 mm 0 mm

サイズ 20 自動 2 自動

☒ NULL時の相対位置のセット

OK キャンセル

相対部品を「氏名（名）」に設定します。

字取りの幅を固定しないので、サイズは「自動」に設定します。

必ずチェックを入れます。

# (10). 「役職名 2」部品を配置します

役職名 2

ルビ(姓) 氏名(姓) 氏名(名)

株式会社メイシ

〒郵便番号1 住所1-1

TEL 3 TEL/FAX1-1

FAX 3 TEL/FAX1-2

E-mail : E-Mail1

可変文字列部品「役職名 2」を配置します。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

対応DB項目 役職名2

対応 DB 項目に「役職名 2」を指定します。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

横(幅) 縦(高さ)

相対部品 ページ ルビ(姓)

相対部品の基点 左 上

基準点 左 下

位置 6 mm -0.5 mm

サイズ 48 自動 2.5 自動

☒ NULL時の相対位置のセット

OK キャンセル

横位置の相対部品は「ページ」に設定します。  
縦位置の相対部品を「ルビ（姓）」に設定します。  
「ルビ（姓）」の上から、自身の下まで「-0.5mm」とします。

サイズは横「固定」、縦「自動」にします。

必ずチェックを入れます。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 **文字属性** DB項目

フォントの種類 サイズ

組み合わせ 2.5 mm

和文 MS 明朝 2.5 mm

欧文 和文と同じ 2.5 mm

数字 和文と同じ 2.5 mm

文字配置 下 左

文字方向 横組み

接頭文字列

文字列 役職名2

接尾文字列

文字の配列 ノーマル 文字間隔 0 mm

変形(長平体) 変形なし 0 %

OK キャンセル

文字サイズは「2.5mm」に設定します。

可変文字列部品なのでこちらに入力した文字列は入力データと置き換わりますが、部品の種類がわかりやすいように編集しても構いません。

### (11). 「役職名 1」部品を配置します

Dtf - [マニアル-実践例題1]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツールボックス ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

役職名 1

役職名 2

ルビ(姓) ルビ(名)

氏名(姓) 氏名(名)

株式会社メイシ

〒郵便番号1 住所1-1

TEL 3 TEL/FAX1-1

FAX 3 TEL/FAX1-2

E-mail : E-Mail1

「役職名 2」部品をコピーして配置します。

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 **文字属性** **DB項目**

対応DB項目 役職名1

対応 DB 項目に「役職名 1」を指定します。

属性の編集

部品 **位置/サイズ** 色 文字属性 DB項目

横(幅) 縦(高さ)

相対部品 ページ 役職名2

相対部品の基点 左 上

基準点 左 下

位置 6 mm -0.5 mm

サイズ 48 mm 自動 2.5 mm 自動

☒ NULL時の相対位置のセット

OK キャンセル

縦位置の相対部品を下に作成した可変文字列部品「役職名 2」に設定します。「役職名 2」部品の上から、自分の下に「-0.5mm」という設定にします。このように設定することにより、「役職名 2」のデータが入力されない場合、「役職名 1」が下に落ちます。横位置の相対部品は「ページ」に指定します。

サイズは横「固定」、縦「自動」にします。

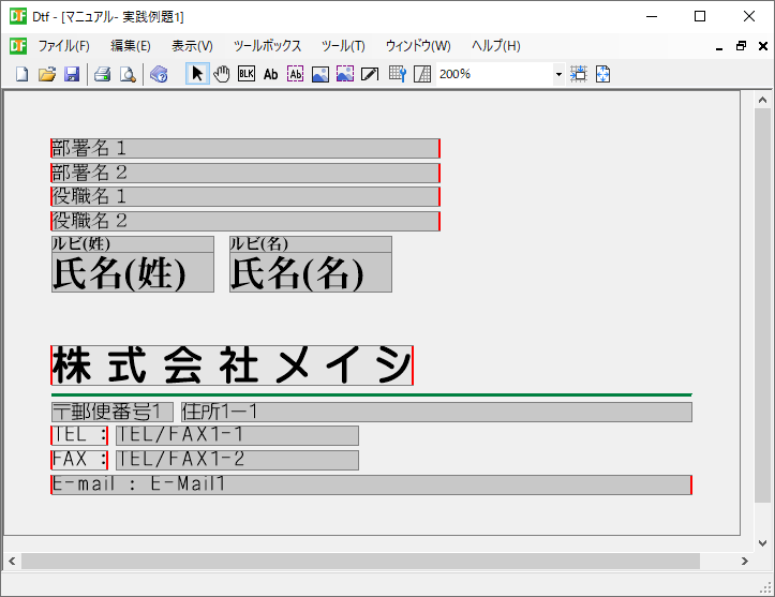
必ずチェックを入れます。

(12). 同様に「部署名 2」「部署名 1」部品を配置します。

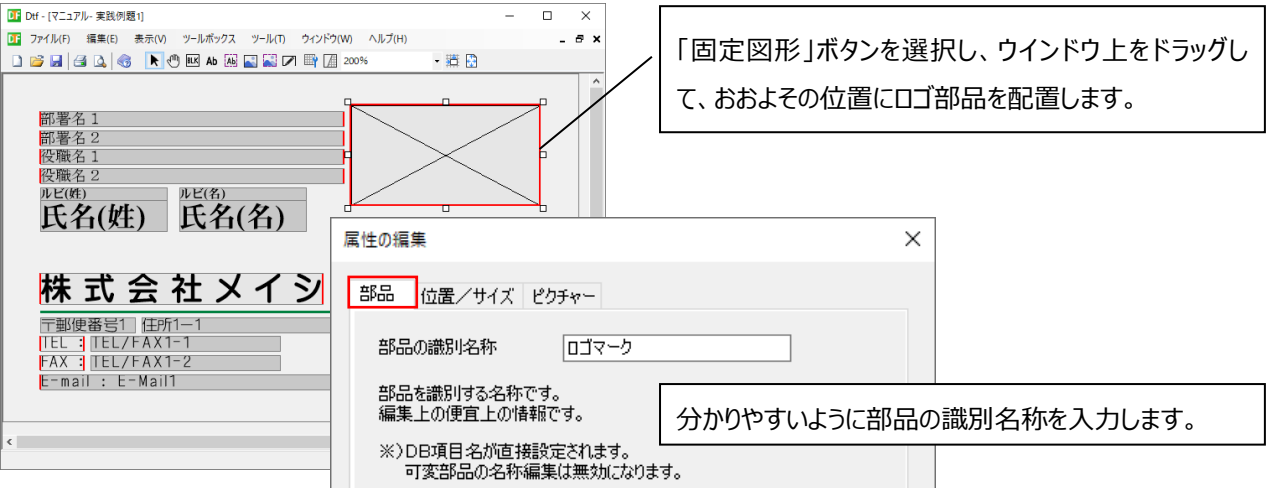
《横位置の相対部品設定》

可変文字列部品：「部署名 2」            相対部品：「役職名 1」  
可変文字列部品：「部署名 1」            相対部品：「部署名 2」

このように部品を積み上げる形で配置していくと、下記ようになります。



(13). ロゴ（固定図形）部品を配置します。



属性の編集

部品 位置/サイズ ピクチャー

横(幅) 縦(高さ)

相対部品 ページ ページ

相対部品の基点 右 上

基準点 右 上

位置 -6 mm 5 mm

サイズ 30 自動 16 自動

☒ NULL時の相対位置のセット

OK キャンセル

ロゴ部品の相対部品は「ページ」に設定します。

サイズは横「固定」、縦「固定」にします。

属性の編集

部品 位置/サイズ ピクチャー

図形(ロゴ)の配置 上 左

図形(ロゴ)ファイル名 参照

図形(ロゴ)の表示方式 (DTF編集時のみ有効) 横方向を全て表示

元画像のサイズ 幅=30.02mm 高さ=16.0mm  
幅=709pixel 高さ=378pixel

☐ 元画像の縦横比率を維持

OK キャンセル

こちらにファイルパスを入力するか、「参照」ボタンを押してフォルダを指定して下さい。

※ 「可変図形」部品の場合は、出力には反映されません。

下のような定義ができていれば完成です。

Dtf - [マニアル- 実践例題1]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツールボックス ツール(T) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

部署名 1 部署名 2 役職名 1 役職名 2

ルビ(姓) 氏名(姓) ルビ(名) 氏名(名)

株式会社メイシ

〒郵便番号1 住所1-1

TEL : TEL/FAX1-1

FAX : TEL/FAX1-2

E-mail : E-Mail1

COMPANY LOGO

以上でパターンの作成は終了です。ファイルを保存して実際に名刺を作成してみましょう。

7-②. センター合わせと“だるま落とし”を利用した定義の作例

(だるま落としの設定については「実践例題 1」を参考にして下さい)

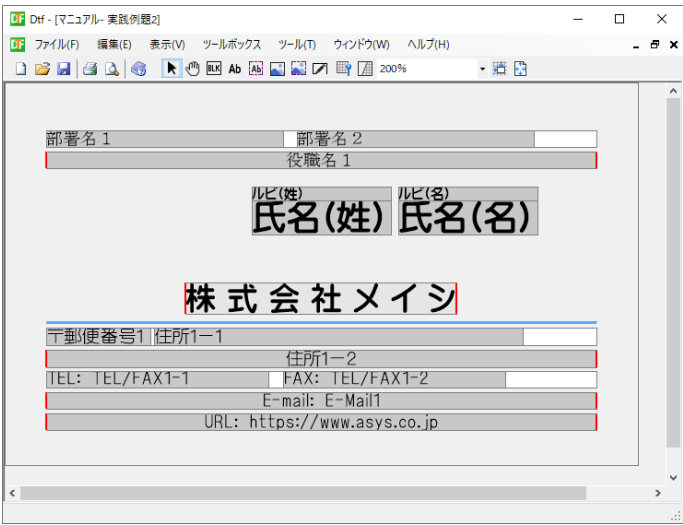
まず、名刺のデザインを確認します。

《名刺》

「URL」(下基準)から「会社名」まで、  
及び「姓」(下基準)から「部署名 1」までが  
相対関係にあり、途中のデータが抜けると下に  
落ちる、だるま落とし(実践例題 1)と水平方向  
の中央揃えを掛け合わせた定義です。



《定義》



《レイアウト情報》

- ・名刺のサイズ：基本 91mm×55mm
- ・氏名の字取り：2
- ・部品の配置ルール

全ての行がページに対してセンター揃え  
社名より下は、「URL」の基準点「下」へだるま落とし  
姓名より上は、「姓」の基準点「下」へだるま落とし

・書体

姓名	ゴシック系	サイズ 5.0mm
ルビ	ゴシック系	サイズ 2.0mm
社名	ゴシック系	サイズ 4.0mm
部署名～役職名	明朝系	サイズ 2.5mm
郵便番号～住所	ゴシック系	サイズ 2.6mm
TEL～URL	欧文系	サイズ 2.7mm

・ロゴなし

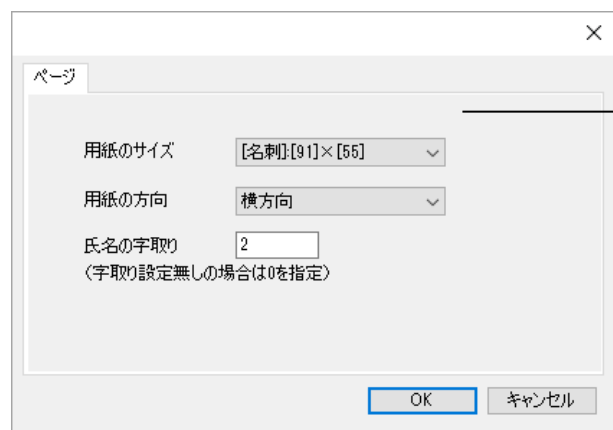
《入力可能項目》

(上から)

- ・部署 1/部署 2
- ・役職 1
- ・ルビ(姓)/ルビ(名)
- ・姓/名
- ・郵便番号 1/住所 1-1
- ・住所 1-2
- ・電話番号
- ・FAX 番号
- ・E-mail アドレス
- ・URL

## 《レイアウト作成》

### (1). 名刺の設定を行います。



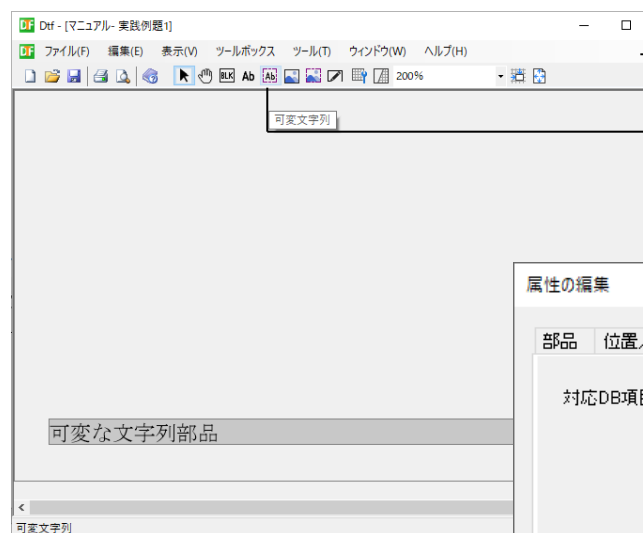
「編集」メニューから「属性の編集」を選択すると左の画面が表示されます。

ここで以下の設定を行います。

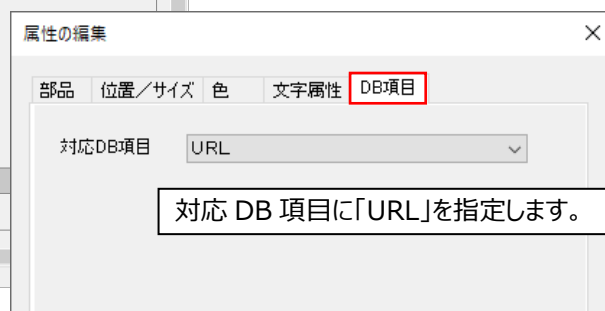
1. 用紙サイズ…「名刺」(91mm×55mm)
2. 用紙の方向…「横方向」横名刺
3. 氏名の字取り…「2」

## 3

## 実践編

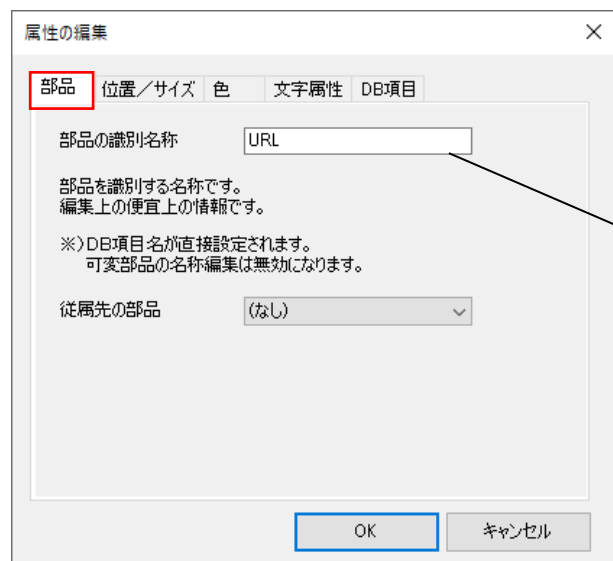


「可変文字列」ツールを選択後、用紙上をドラッグして、おおよその位置に部品を配置します。  
配置すると属性の編集画面が表示されますので、DB 項目から設定します。



対応 DB 項目に「URL」を指定します。

### (2). 可変文字列部品「URL」を配置します。



可変部品は、対応 DB 項目を指定すると自動的に部品の識別名称が設定されますので、入力する必要はありません。

※ 名称を変更しても反映されません。

横位置の相対部品を「ページ」に指定します。  
ページの「中央」から自身の基準点「中央」まで  
「0mm」と指定します。

縦位置の相対部品を「ページ」に指定します。  
ページの「下」から自身の「下」まで「-5mm」と指定し  
ます。

「URL」が入力されなかった場合、上に配置した部品が  
落ちる仕組みになります。  
必ずチェックを入れます。

文字の配置を「下 中」に指定します。  
部品領域の中で、文字が中央下に配置されます。部  
品がページに対して中央にあるため、文字もページに対  
して中央に配置されます。

接頭文字列に「URL:」を入力します。  
「URL」に文字が入力されると、データの先頭に  
「URL:」が表示されます。  
入力がない場合は表示されません。

### (3). 可変文字列部品「E-Mail」を配置します。

「E-mail1」を新規に作成することも可能ですが、文字  
属性等の設定が「URL」とほとんど同じであるため、コピ  
ーを作成して変更部分のみ再設定します。  
「URL」を選択し「Ctrl」キーを押しながら、ドラッグさせ  
るとコピーができます。

対応 DB 項目に「E-mail1」を指定します。

この部品も同様に、横位置の相対部品を「ページ」に設定します。

縦位置は「URL」の基点「上」から、自身の「下」まで「-0.5mm」と指定します。  
これにより、「E-mail1」に入力がない場合は上の部品が落ちる仕組みとなります。

必ずチェックを入れます。

文字の配置を「下 中」に指定します。

部品領域の中で、文字が中央下に配置されます。部品がページに対して中央にあるため、文字もページに対して中央に配置されます。

接頭文字列に「E-mail :」を入力します。

「E-mail」に文字が入力されると、データの先頭に「E-mail :」が表示されます。  
入力がない場合は表示されません。

(4). ブロック部品を配置します。(このブロック内に可変文字列部品「TEL/FAX1-1」「TEL/FAX1-2」を配置します)

ブロックツールを選択後、用紙上をドラッグして、おおよその位置に部品を配置します。  
配置したブロック部品をダブルクリックして、属性を編集します。



属性の編集

部品 位置/サイズ

部品の識別名称

部品を識別する名称です。  
編集上の便宜上の情報です。

※)DB項目名が直接設定されます。  
可変部品の名称編集は無効になります。

従属先の部品

OK キャンセル

ブロック部品は「部品の識別名称」が自動的に付きません。（初期状態では「BLOCK」）  
ご自分でわかりやすい名称に変更して下さい。  
ここでは「BLOCK\_TEL & FAX」とします。

属性の編集

部品 位置/サイズ

相対部品

相対部品の基点

基準点

位置  mm

サイズ  ☒ 自動

☒ NULL時の相対位置のセット

OK キャンセル

この部品も同様に、横位置の相対部品を「ページ」に設定します。

縦位置は「E-mail1」の基点「上」から、自身の基準点「下」まで「-0.3mm」と指定します。

これにより、ブロック内に配置する部品（TEL/FAX 1-1 及び TEL/FAX 1-2）のデータが共に入力されなかった場合、上に配置した部品が下に落ちる仕組みになります。

入力データによってサイズを調節させるため、必ず「自動」にチェックを入れます。

必ずチェックを入れます。

(5). ブロック内に可変文字列部品「TEL/FAX1-1」を配置します。

DTF - [マニュアル- 実践例題2]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツールボックス ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

TEL: TEL/FAX1-1

E-mail: E-Mail1

URL: https://www.asys.

属性の編集

部品 位置/サイズ 色 文字属性 DB項目

対応DB項目

「ブロック」内に「TEL/FAX1-1」を配置します。  
可変文字列ツールを選択後、ブロック内でドラッグして部品を配置します。  
また、既存の部品をブロック内に配置したい場合は、その部品を選択し「Shift」キーを押しながらブロック内にドロップさせて配置します。

対応 DB 項目に「TEL/FAX1-1」を指定します。

横位置の相対部品に「ブロック」を指定します。  
「ブロック」の「左」から自身の「左」まで「0mm」と指定します。

入力データによってサイズを調節させるため、必ず「自動」にチェックを入れます。

縦位置の相対部品も「ブロック」に指定します。  
「ブロック」の「下」から自身の「下」まで「0mm」と指定します。

入力データによってサイズを調節させるため、必ず「自動」にチェックを入れます。

必ずチェックを入れます。

接頭文字列に「TEL:」を入力します。

(6). ブロック内に可変文字列部品「TEL/FAX1-2」を配置します。

「TEL/FAX1-1」と同様に「ブロック部品」内に「TEL/FAX1-2」を配置します。

対応 DB 項目に「TEL/FAX1-1」を指定します。

横の相対部品を「TEL/FAX1-1」に指定します。  
「TEL/FAX1-1」の「右」から自身の「左」まで「2mm」と指定します。

入力されるデータによってサイズを調節させるため、必ず「自動」にチェックを入れます。

縦の相対部品を「ブロック」に指定します。  
「ブロック」の「下」から自身の「下」まで「0mm」と指定します。

入力データによってサイズを調節させるため、必ず「自動」にチェックを入れます。

必ずチェックを入れます。

接頭文字列に「FAX :」を入力します。

(7). 以上の要領で「住所 1-2」より上の部品についても作成します。

#### 《注意点》

全ての部品（ブロック内部部品を除く）について、横位置の相対部品を「ページ」の「中央」基点と各部品の基準点「中央」を合わせて（位置=0mm）配置します。

#### 《横位置の相対部品設定》

可変文字列部品：「住所 1-2」

ブロック部品：「郵便番号 1/住所 1-1」

可変文字列部品：「郵便番号 1」

可変文字列部品：「住所 1-1」

罫線部品：「k\_LINE」

可変文字列部品：「会社名」

可変文字列部品：「姓」/「名」

相対部品：「ブロック（BLOCK\_TEL&FAX）」

相対部品：「住所 1-2」

相対部品：「ブロック（郵便番号 1/住所 1-1）」

相対部品：「郵便番号 1」

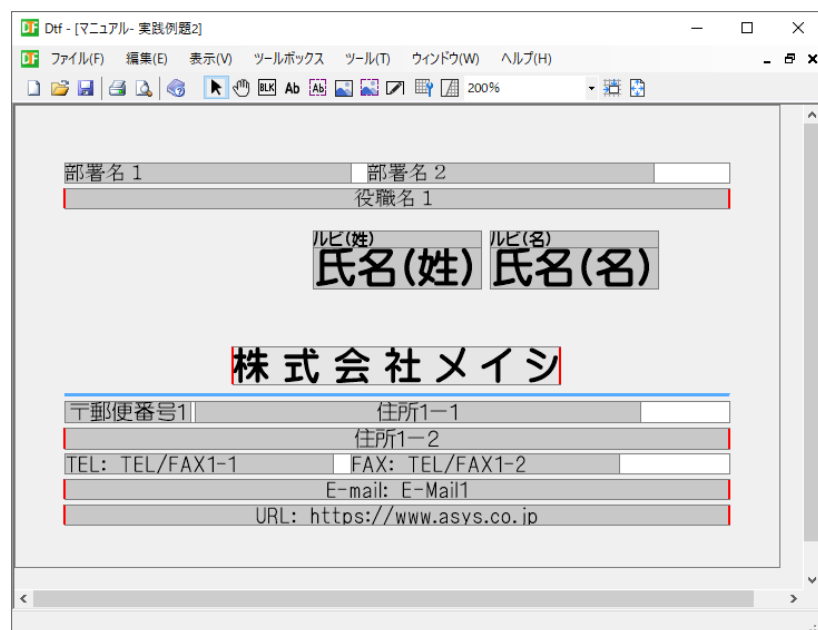
相対部品：「ブロック（郵便番号 1/住所 1-1）」

相対部品：「k\_LINE」

相対部品：「ページ」（基準位置になるため）

可変文字列部品：「役職 1」	相対部品：「姓」／「名」
ブロック部品：「部署名 1／部署名 2」	相対部品：「役職名 1」
可変文字列部品：「部署名 1」	相対部品：「ブロック（部署名 1／部署名 2）」
可変文字列部品：「部署名 2」	相対部品：「部署名 1」

上記のように部品を積み上げていき、下のような定義ができていれば完成です。



以上でパターンの作成は終了です。ファイルを保存して実際に名刺を作成してみましょう。

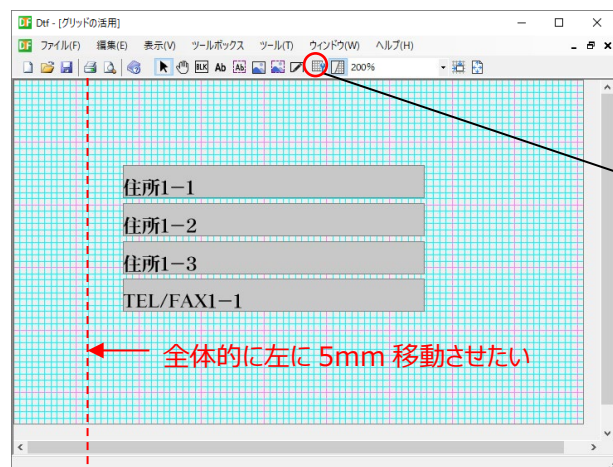
## Part.4 よくある質問

### 8. ページ

#### 8-①. グリッドの活用

レイアウトの調整を行う際、ミリ単位で修正を行うことも多くなります。

属性の編集－位置 で数字を入力する方法以外に、グリッド活用で、簡単に位置調整を行うことが可能になります。



#### グリッドの設定

グリッドの幅  mm

グリッドの高さ  mm

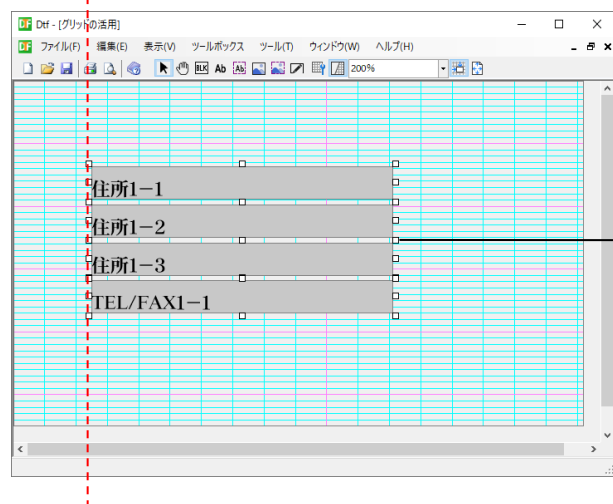
☒ グリッドを表示する。

☐ グリッドに部品を合わせる。(非表示の時は無効)

グリッド線の色指定

グリッド線(10倍)の色指定

グリッドの幅を 5mm に設定します。



ドラックして部品を複数選択します。

そのまま左向きの矢印キーを一回押すと、全体が 5mm 移動します。

## 9. 文字

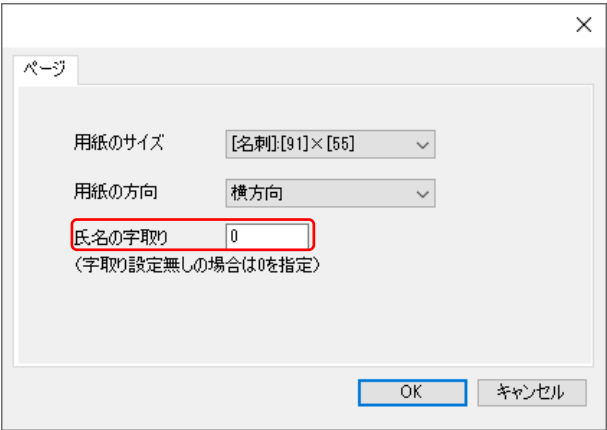
### 9-①. 字取りを設定する

パターンで使用する字取りを設定します。

ページ内の何も部品がない場所をダブルクリック（または右クリック→属性の編集）すると、ウインドウが出てきます。

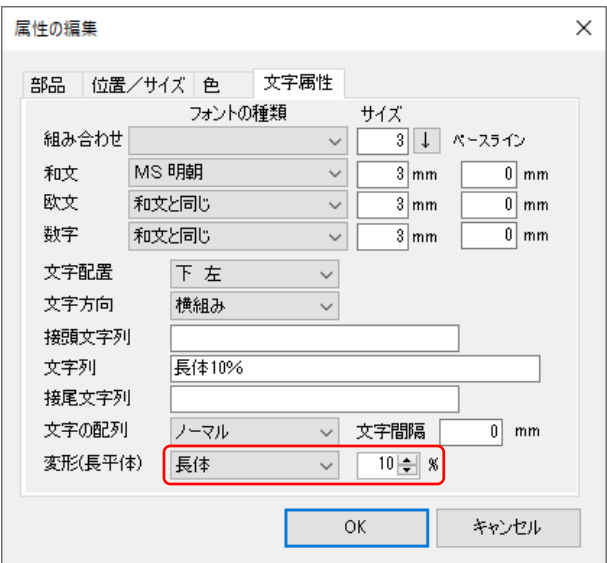
『氏名の字取り』に該当のパターン ID を入力し OK を押してください。

尚、オリジナルの字取り設定は、BizCard Pro にて作成可能です。



### 9-②. 長体・平体を設定する

属性の編集 - 文字属性より長体・平体が設定できます。



長体30%

長体10%

変形なし

平体10%

平体30%

Adobe Illustrator の設定とは、下記のような関係になります。

長体 30%→水平比率 70%

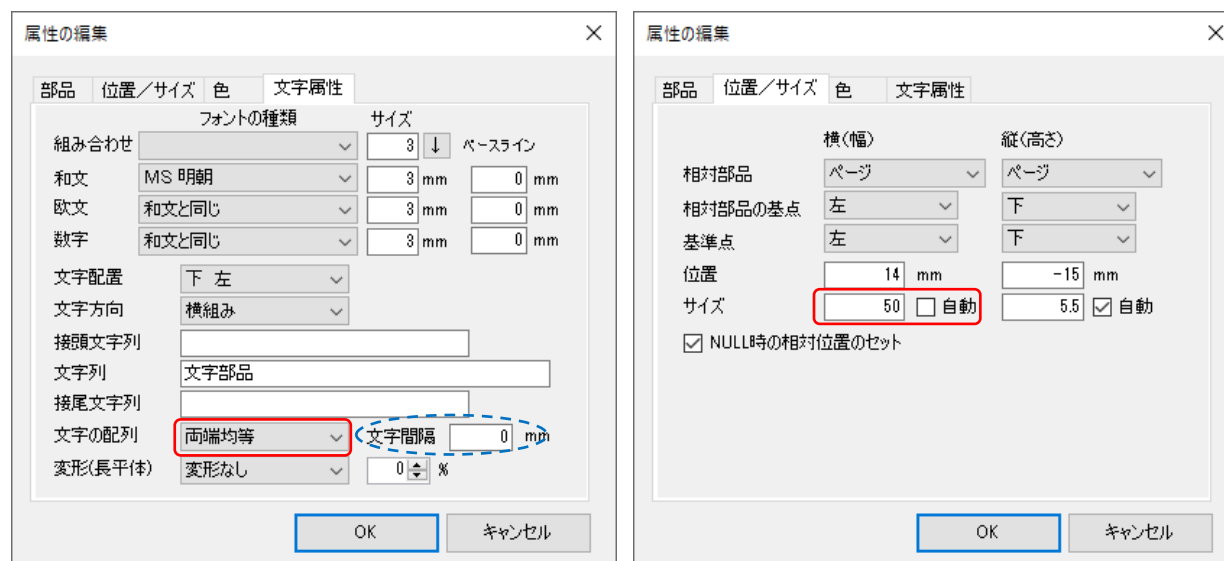
長体 10%→水平比率 90%

平体 10%→垂直比率 90%

平体 30%→垂直比率 70%

## 9-②. 両端均等にする

決まった幅（高さ）に対して、等間隔に文字を配置できます。



属性の編集－文字属性－文字の配列で『両端均等』を選択

属性の編集－位置／サイズ－サイズで『自動』のチェックボックスを外します

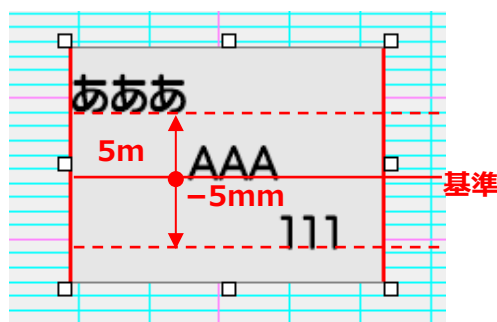
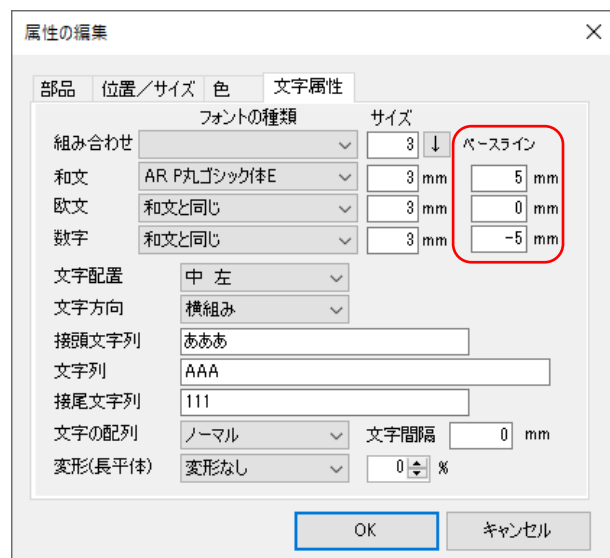
※『自動』のチェックが入ったままだと、両端均等は適用されないのので、必ず外してください。

※ 文字間隔が設定されている場合、両端均等が優先されるので適用されません。

## 9-⑤. ベースラインを設定する

文字のベースラインの位置を設定できます。

文字の下部が基準となり、和文・英文・数字それぞれに設定ができます。

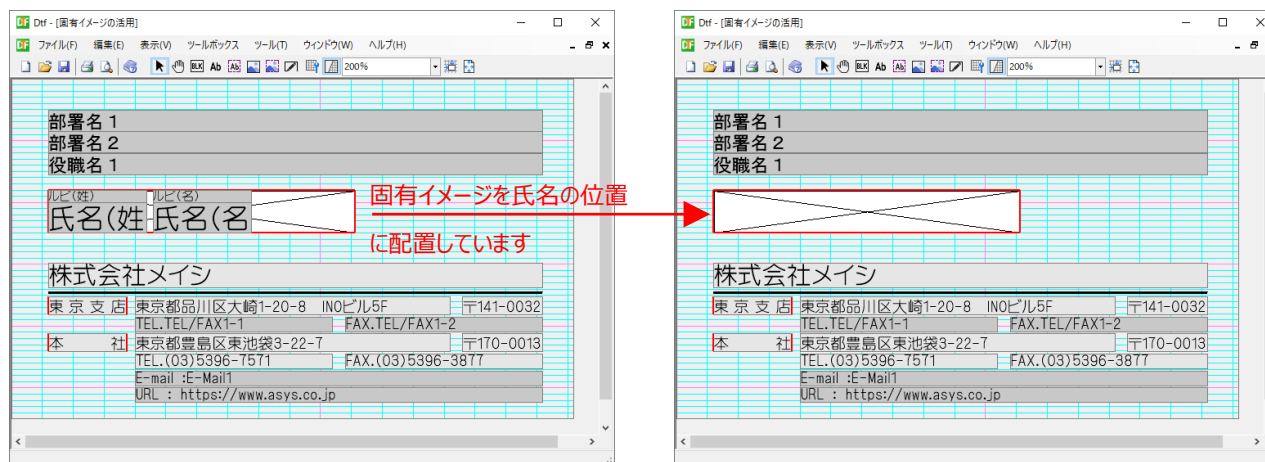


## 10. 画像

### 10-①. 固有イメージの活用

固有イメージは社員番号に紐づけて表示させることができるので、顔写真入りの名刺でよく使用されますが、使い方次第では他にも活用することができます。

例えば、名前に外字が入る場合、名前全体を画像で作成して固有イメージの部品を配置しておけば、文字としての外字の作成や登録は必要なくなります。



4

よくある質問

### ■ 通常

原稿入力

データNo: 36

名刺種別: ☒ 片面 ☐ 両面

編集: ☒ おもて ☐ うら

主要項目: 住所 **イメージ** 自由定義その他 注文情報 外字

分類1: 株式会社メイシ

2:

パターン: 固有イメージの活用

会社名:

組織名:

部署名1: 営業部

2: 営業二課

3:

役職名1: 係長

2:

資格名1:

2:

3:

ルビ種別: 標準 (定義に依存) 幅(%) 70

ルビ:

氏名: 山本 花子 ☒ 氏名出力 ☐ 字取り無効

E-Mail: h\_yamamoto@meishi.co.jp

2:

3:

URL: http://www.meishi.co.jp

携帯番号1: 2 3

閉じる

### 【 プレビュー 】

営業部  
営業二課  
係長

山本 花子

株式会社メイシ

東京支店 東京都品川区大崎1-20-8 INOビル5F 〒141-0032  
TEL.(03)5436-9014 FAX.(03)5436-9015  
本社 東京都豊島区東池袋3-22-7 〒170-0013  
TEL.(03)5396-7571 FAX.(03)5396-3877  
E-mail : h\_yamamoto@meishi.co.jp  
URL : http://www.meishi.co.jp

氏名が姓名部品に反映されています。



## ■ 氏名を固有イメージにした場合

社員番号を名前とした画像を作成

《 2.jpg 》

【 プレビュー 】

営業部  
営業二課  
係長

高橋 花子

株式会社メイシ

東京支店 東京都品川区大崎1-20-8 INOビル5F 〒141-0032  
TEL.(03)5436-9014 FAX.(03)5436-9015  
本社 東京都豊島区東池袋3-22-7 〒170-0013  
TEL.(03)5396-7571 FAX.(03)5396-3877  
E-mail : h\_takahashi@meishi.co.jp  
URL : http://www.meishi.co.jp

作成した氏名画像が反映されています。

姓のフィールドには『高橋』と入っていますが、プレビューすると『高 橋』になっています。

1. 表示させる姓名（ルビ含む）の画像を作成し、社員番号をファイル名とします。

BizCardV5¥image¥[企業 ID]フォルダの中に『koyu』フォルダを作成して保存します。

2. 姓名フィールドの右にある「姓名を出力」チェックを外し、文字としての姓名を出力させないようにします。

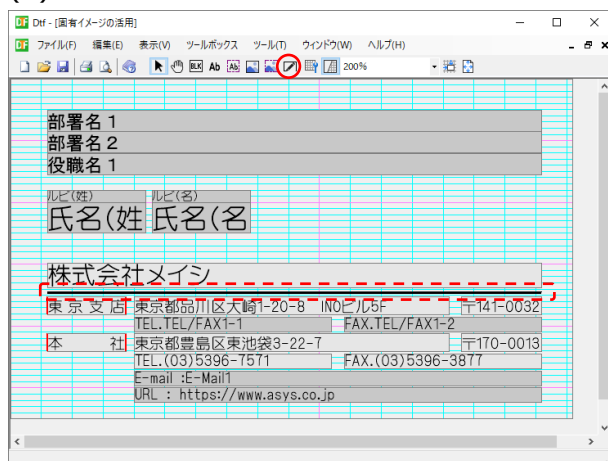
3. 注文情報画面に遷移し、当該企業 ID と社員番号を入力します。

4. プレビューさせると、社員番号に連動して、作成した姓名画像が表示されます。

## 11. 部品

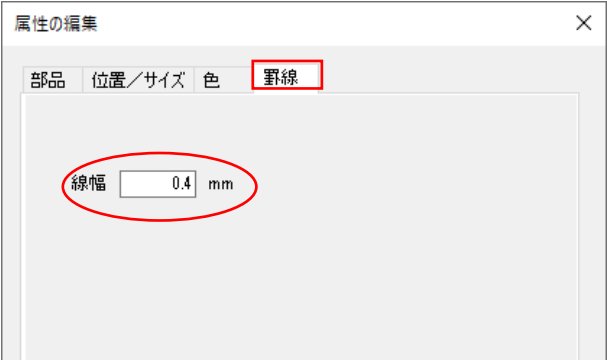
### 11-①. 罫線ツールでラインを描画する

(1). 罫線ツールを選択し、適当にドラックします。

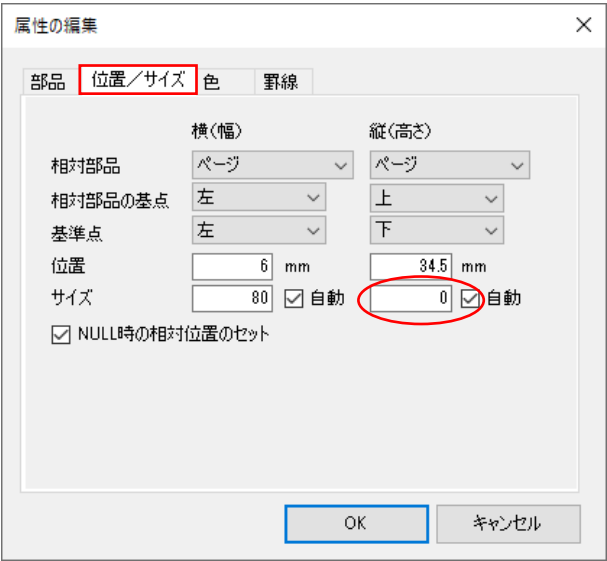


名刺内にラインを作成します

(2). 属性の編集より線幅を指定します。



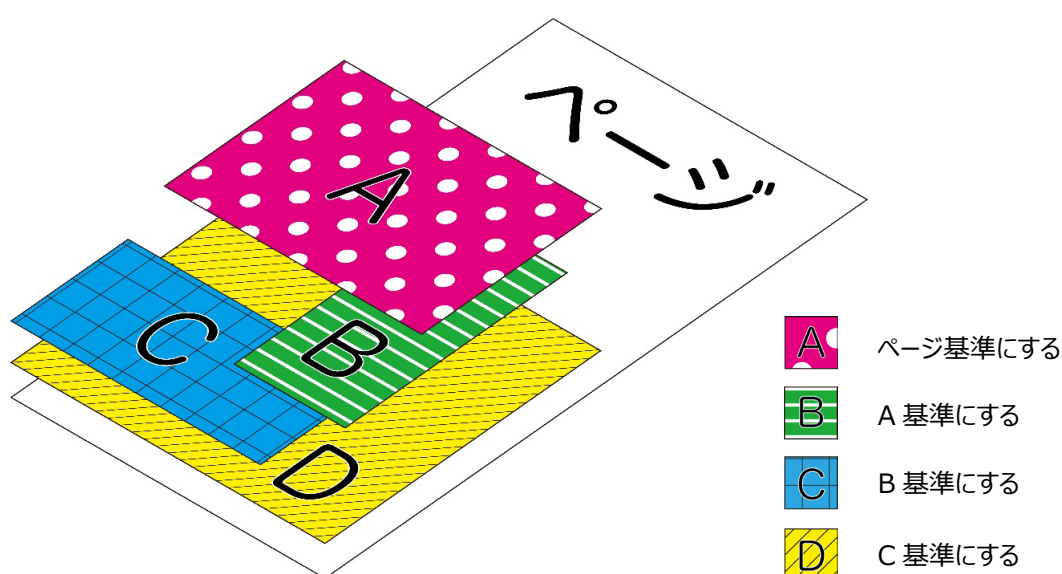
(3). 同じく属性の編集の「位置／サイズ」タブで縦（高さ）のサイズを 0 mm にすると、ラインとして表示されます。  
(縦ラインの場合は、横（幅）を 0mm とします。)



## 11-②. 同一パターン内で画像部品が重なった場合の設定方法

一つの名刺内にいくつもの画像を重ねて配置する場合（選択イメージの多用など）、手前に表示させたいものが画像の後ろに隠れてしまう場合があります。

1. 重なる順番を整理・確認します。
  2. 一番上に表示させたい画像部品の属性の編集を開き、相対部品をページ基準にします。  
(相対部品の縦・横は入力データが入った際に画像に影響しない方を選択してください。)  
下図の場合はAの部品をページ基準とします。
  3. Aの部品の背面に表示させたい画像部品を選択し、同様に属性の編集を開きます。  
部品は前面の部品（下図のA）を設定します。
  4. 同様にCの相対部品はB、Dの相対部品はCというように設定すれば完成です。
- ※ 相対部品は、だるま落としによる位置の変化が発生しない向き（縦・横）を使用します。



### ◆画像部品と文字部品の重なり順について

画像部品と文字部品が重なる場合、常に文字部品が最前面になります。

文字を画像化した場合、上記の画像同士の相対関係によって前面、背面を制御することが可能です。

## 11-③. ブロック使用時の注意点

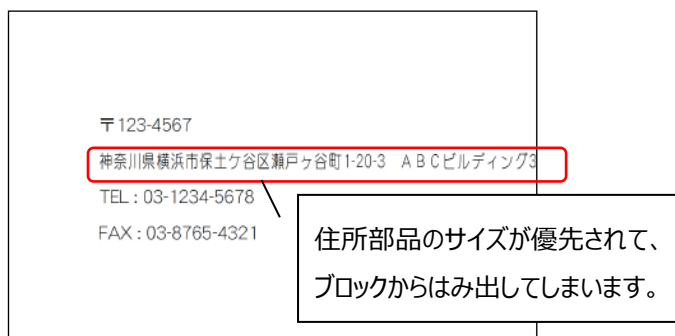
### A). ブロックのサイズを固定する場合

ブロックのサイズを固定して、決まった位置で文字を止めたい場合、ブロック内の部品のサイズまで固定してしまうと、部品サイズが優先されてしまいます。ブロックよりも中の部品のサイズが大きい場合、止まらずにはみ出してしまうので注意が必要です。



ブロックサイズ：固定（60mm）

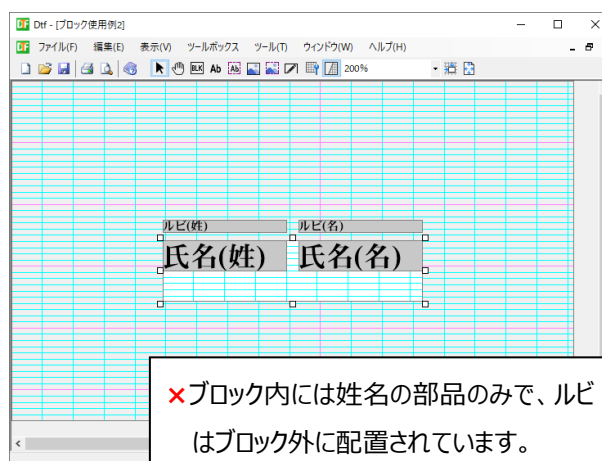
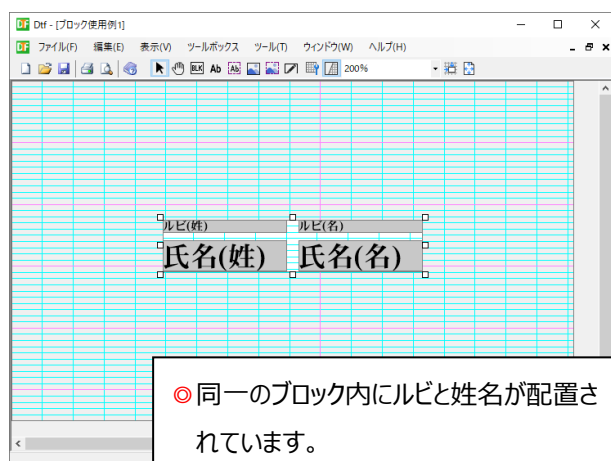
住所部品：自動（80mm）



ブロックサイズ：固定（60mm）

住所部品：固定（80mm）

### B). ブロックを使用して姓名・ルビを配置する場合



姓名の配置にブロックを使用する場合、姓名の部品とルビの部品を同一のブロック内に入れないと、下図の通りルビ種が反映されません。

【漢字一文字に対して中央】

やまもと はなこ

山 本 花 子

【姓名全体に対して中央】

{70}やまもと {70}はなこ

山 本 花 子

【姓名それぞれに対して中央】

{70}やまもと {70}はなこ

山 本 花 子

【姓名それぞれに対して頭揃え】

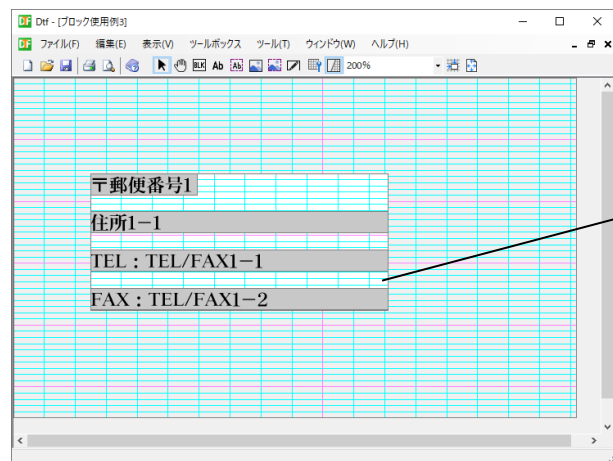
◇やまもと ◇はなこ

山 本 花 子

### C). ブロック内部品 基準点の設定

ブロック内に複数の部品を配置する際、ブロックサイズを自動にしている場合、上下・左右どちらか決まったほうに基準を合わせないと、うまく表示されません。

ブロックサイズが自動だと、部品に入力されるデータによって大きさが変わります。したがって、ブロック内で基準点を統一しないと、表示位置が定まりません。



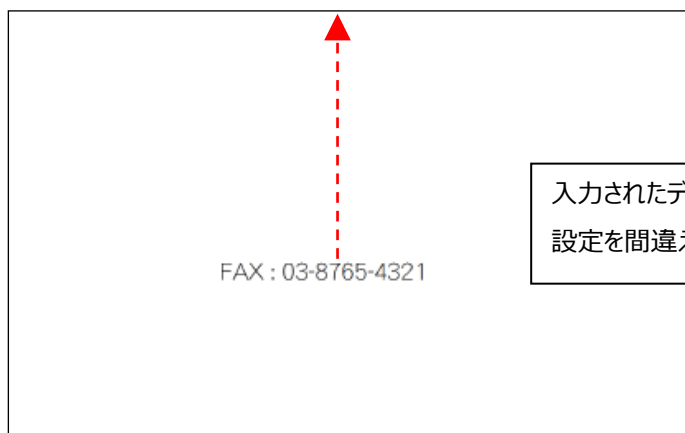
**ブロック内部品の基準点の設定が重要です！**

4

よくある質問



- ◎ 郵便番号の『相対部品の基点』・『基準点』をブロックの『上』・『上』で設定（絶対座標）。住所、TEL を相対部品として下にぶら下げています。



入力されたデータは枠外にあり、消えたわけではありません。  
設定を間違えると表示が確認できなくなるので注意が必要です。

- ✕ 郵便番号の『相対部品の基点』・『基準点』をブロックの『上』・『上』で設定。  
TEL/FAX1-2の『相対部品の基点』・『基準点』をブロックの『下』・『下』で設定。  
ブロック内の基準点がバラバラで、表示位置が定まらないので、入力されたデータが枠外に出てしまいます。

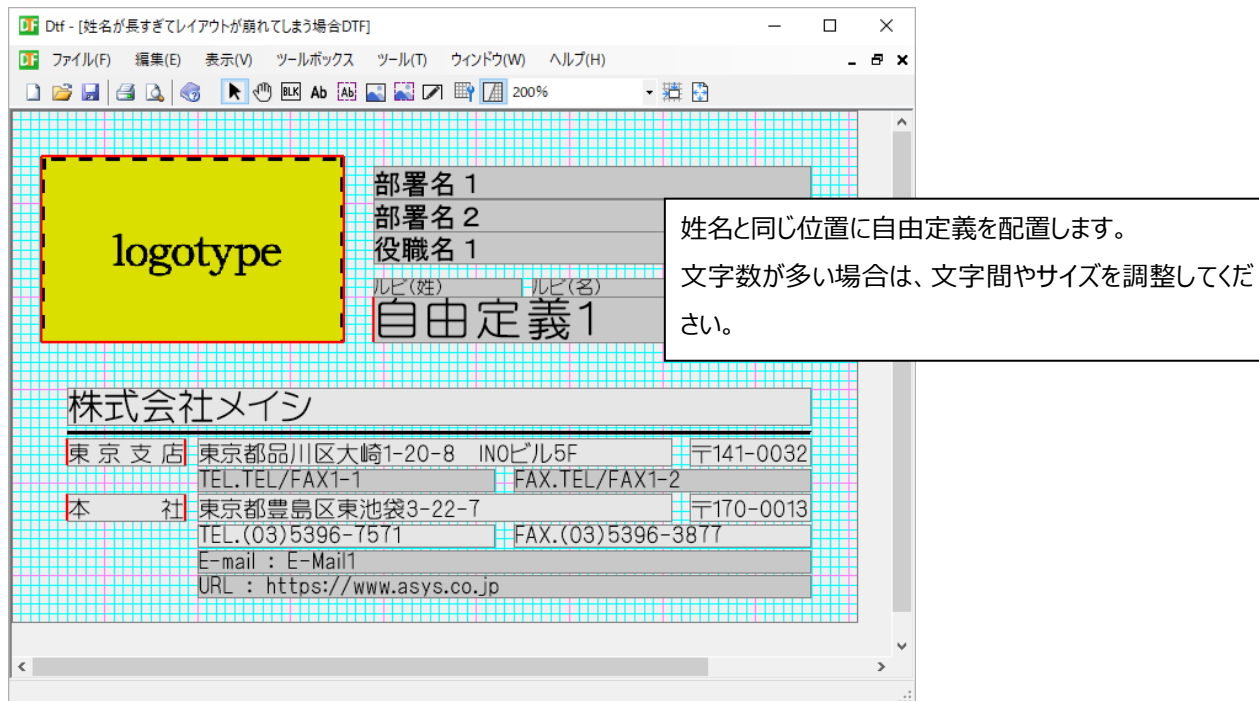
## 12. その他

### 12-①. 姓名が長すぎてレイアウトが崩れてしまう場合

姓名が長すぎると、デザインによっては紙面に収まりきらず、レイアウトが崩れてしまうことがあります。

ブロックに入れた場合、苗字が長いと名前のみに長体がかかったり、フォントルールを適用しても、入力文字数のバリエーションが多いため、調整が難しくなります。

その場合、姓名の部品と同じ位置に自由定義を配置し、そこに「姓(スペース)名」と一続きに入力することで、右側の余白を維持しつつ、姓名全体に長体をかけることができます。



4

よくある質問



- ・ 姓名それぞれ入力した場合  
氏名が長いとレイアウトが崩れてしまいます。
- ・ 自由定義に入力した場合  
姓名は一つの部品に入るので長体がかかります。

12-②. 部品の位置が規定よりもずれてしまう場合

上詰めやだるま落としの設定があるパターンの場合、基点となる部品に入力データがない時に、規定の位置よりずれて表示されてしまうことがあります。

相対関係が設定された個々の部品の相対位置が、だるま落としが有効となった際、少しずつズレが生じてしまうことが原因です。この現象は、部品同士の行間を等間隔に配置することで、ある程度回避できます。

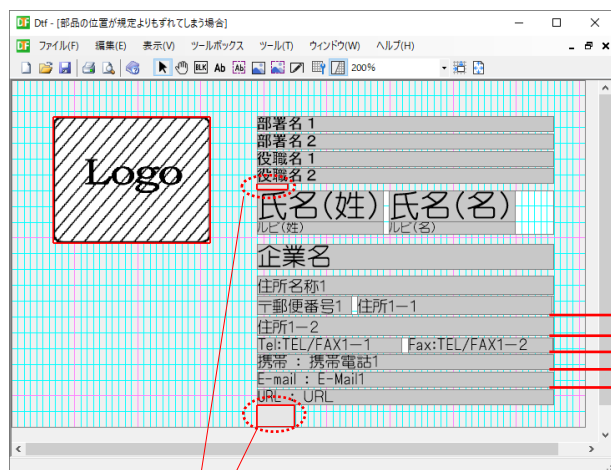
しかし、どうしてもうまくいかない場合には、下記のように空の部品を置くことでズレを回避させることができます。



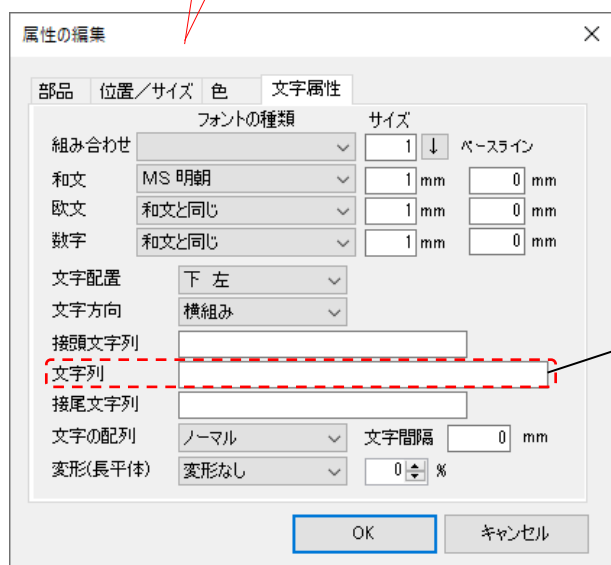
赤い線が規定ラインです。係長(役職名 1)とメールアドレスは規定ラインの位置に配置されています。



係長(役職名 1)と TEL/FAX の位置が規定ラインよりも下に下がってしまっています。



行間が統一されていないことが、規定の位置からズレてしまう原因です。  
可能な限り、全ての行間を均等にすることをおすすめします。



スペースを一つ入れます

適当な大きさの固定文字列部品を作成し、『位置／サイズ』の縦のサイズの自動チェックを外しておきます。

『文字属性』より、文字列の部分に全角スペースを入れ、この部品の基準点をページとします。

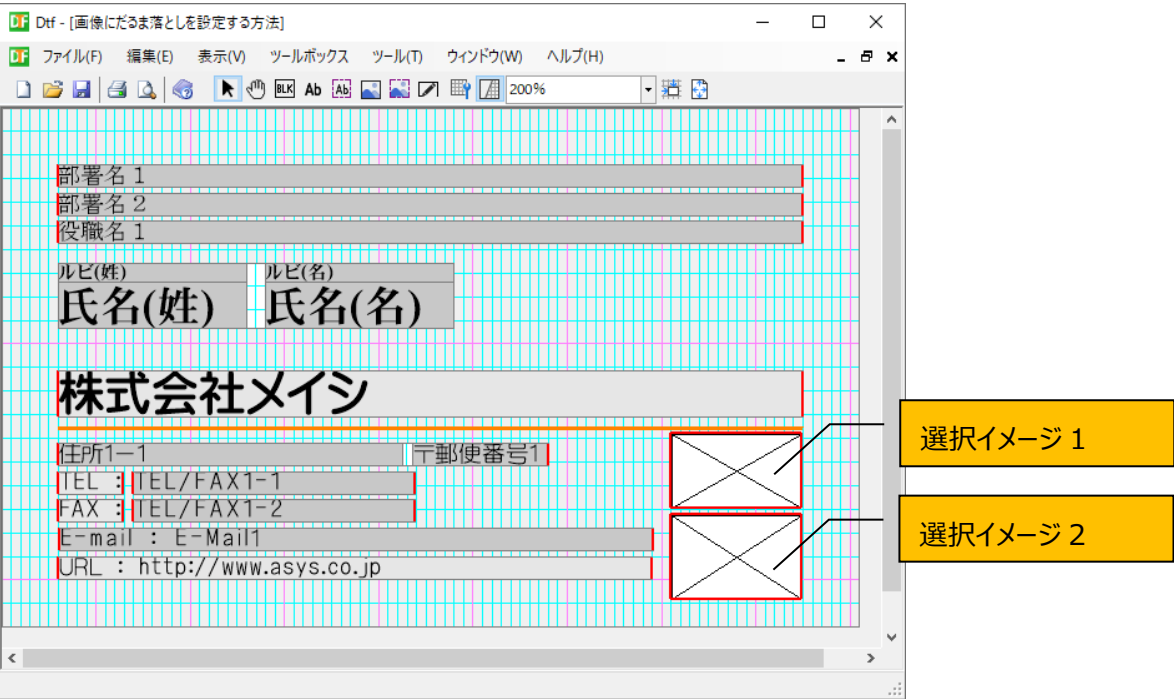
※ 文字サイズは必ず部品の高さ以内のサイズを設定してください。

あとは、通常のだるま落としと同様に個々の部品を積上げ、プレビューしながら調整してください。

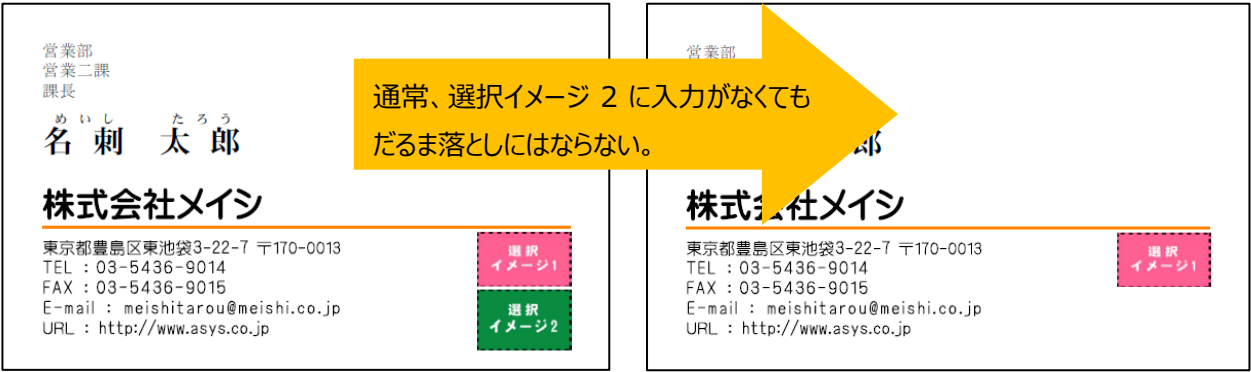


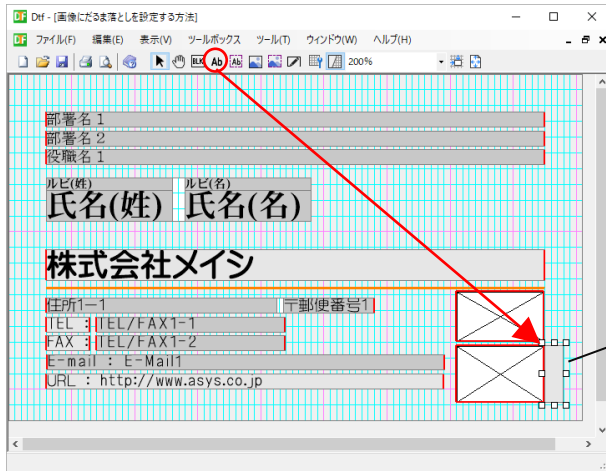
12-③. 画像にだるま落としを設定する方法

選択イメージが選択されなかった際、文字と同様にだるま落としを適用させる方法です。  
画像は文字とは異なり、通常はサイズ固定で作成します。  
ですが、サイズを固定すると入力がない場合でもその幅で固定されてしまうため、通常のだるま落としの設定のままでは適用されません。

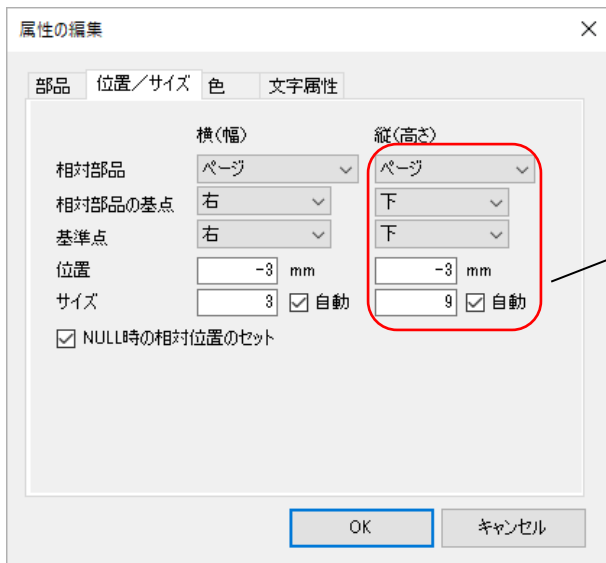


今回は、『選択イメージ 2』で画像の選択がない場合、『選択イメージ 1』がだるま落としで『選択イメージ 2』の下ラインまで落ちる設定にします。

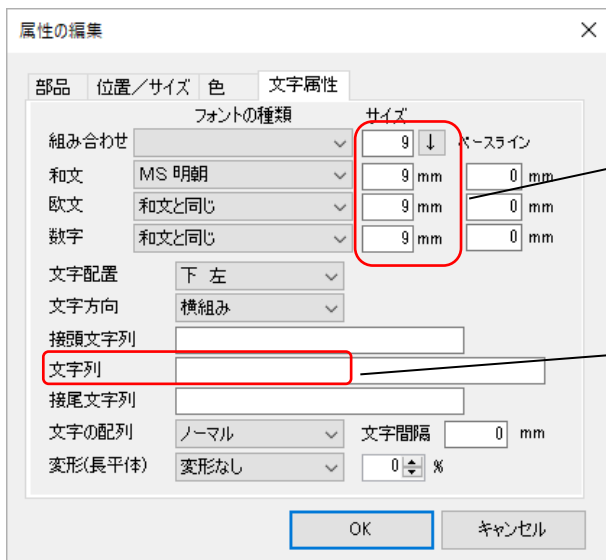




固定文字列部品を作成します。



属性の編集の【位置/サイズ】タブより、縦(高さ)を『選択イメージ 2』と同じ設定にします。  
ただし、サイズの自動チェックは入れておきます。



フォントサイズを縦（高さ）と同様の 9mm とします。

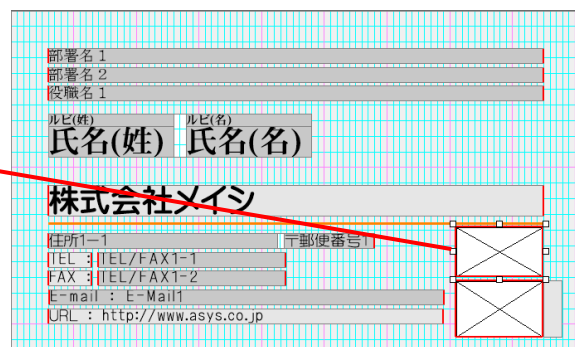
属性の編集の【文字属性】タブの、文字列に全角スペースを入力します。

属性の編集の【部品】タブの、部品の識別名称に分かりやすい適当な名前を付けます。(指定しない場合自動的に『STSTRING』等と入力されます)

従属先の部品を『選択イメージ 2』とします。

『選択イメージ 1』属性の編集の【位置/サイズ】タブを開きます。

縦(高さ)の相対部品を先程作成した固定文字列部品とし、相対部品の基点を上、基準点を下とします。

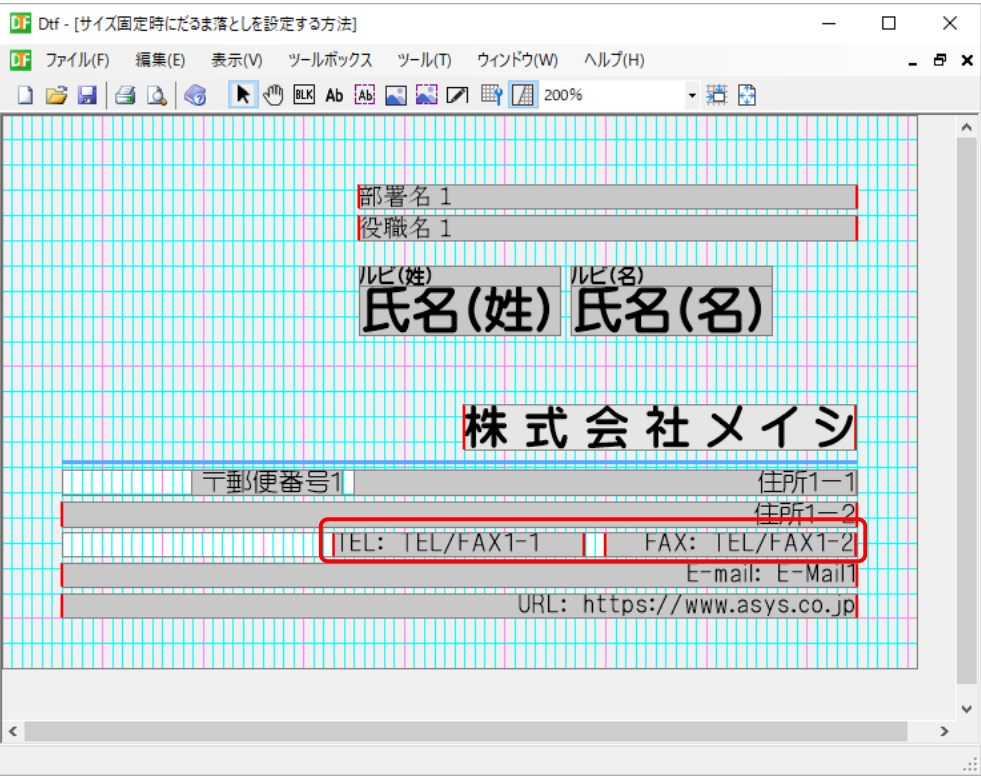


『選択イメージ 2』が選択されなかった場合、『選択イメージ 1』がだるま落としで下に下がりました。

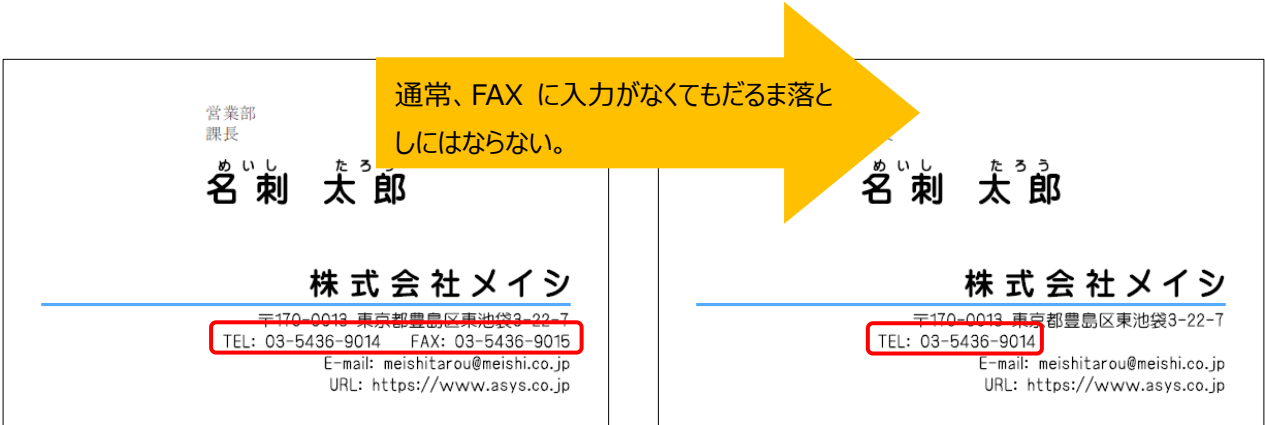
『選択イメージ 1』を固定イメージ・文字部品にした場合も同様です。

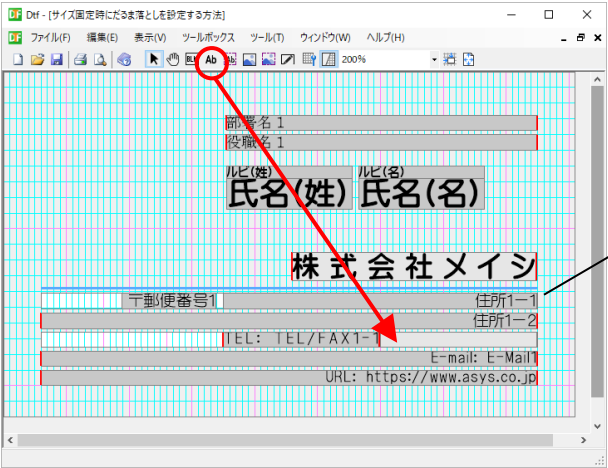
12-④. サイズ固定時にだるま落としを設定する方法

項目の幅をサイズ固定とした場合でも、横方向にだるま落としを適用させる方法です。  
サイズを固定すると入力がない場合でもその幅で固定されてしまうため、通常のだるま落としの設定のままでは適用されません。

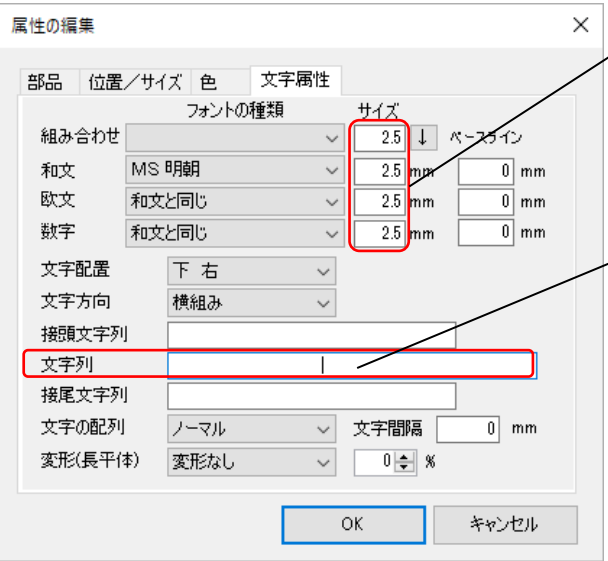


今回は『FAX』に入力がない場合『TEL』が右端まで移動するように設定します。  
このパターンの場合、『TEL/FAX1-1』『TEL/FAX1-2』ともにサイズ固定で両端均等になっている為、  
通常の方法ではだるま落としは適用されません。





固定文字列部品を作成します。



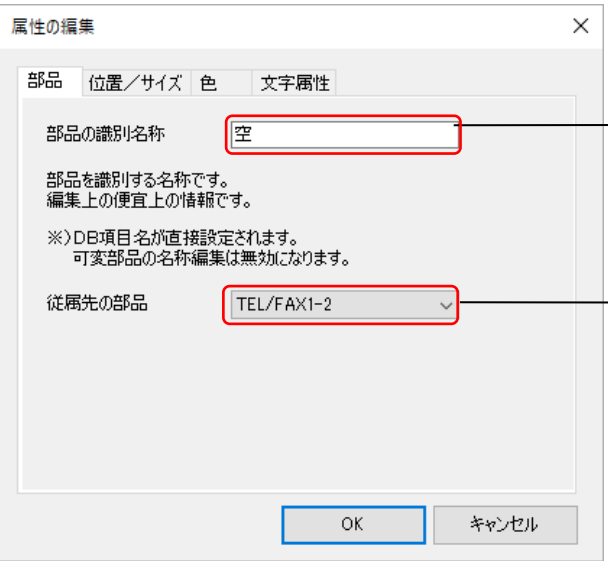
フォントサイズを縦（高さ）と同様の 3mm とします。

属性の編集の【文字属性】タブの、文字列に全角スペースを入力します。

ここで、プレビューを確認しながら、『TEL』と『FAX』が重ならないようにスペースの数を調整します。

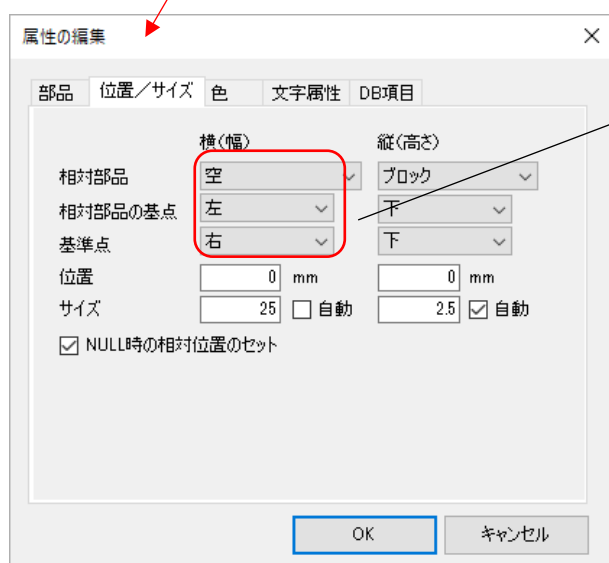
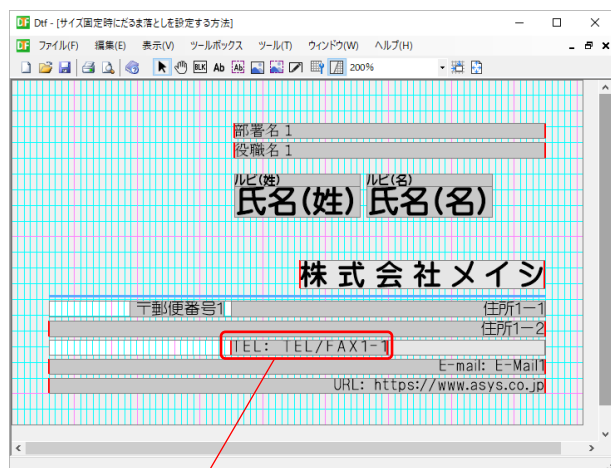


スペースが足りないと重なって表示されてしまいます。



属性の編集の【部品】タブの、部品の識別名称に分かりやすい適当な名前を付けます。（指定しない場合自動的に『STSTRING』等と入力されます）

従属先の部品を『TEL/FAX2』とします。



『TEL/FAX1-1』属性の編集の【位置／サイズ】タブを開きます。  
横（幅）の相対部品を先程作成した固定文字列部品とし、相対部品の基点を左、基準点を右とします。

4

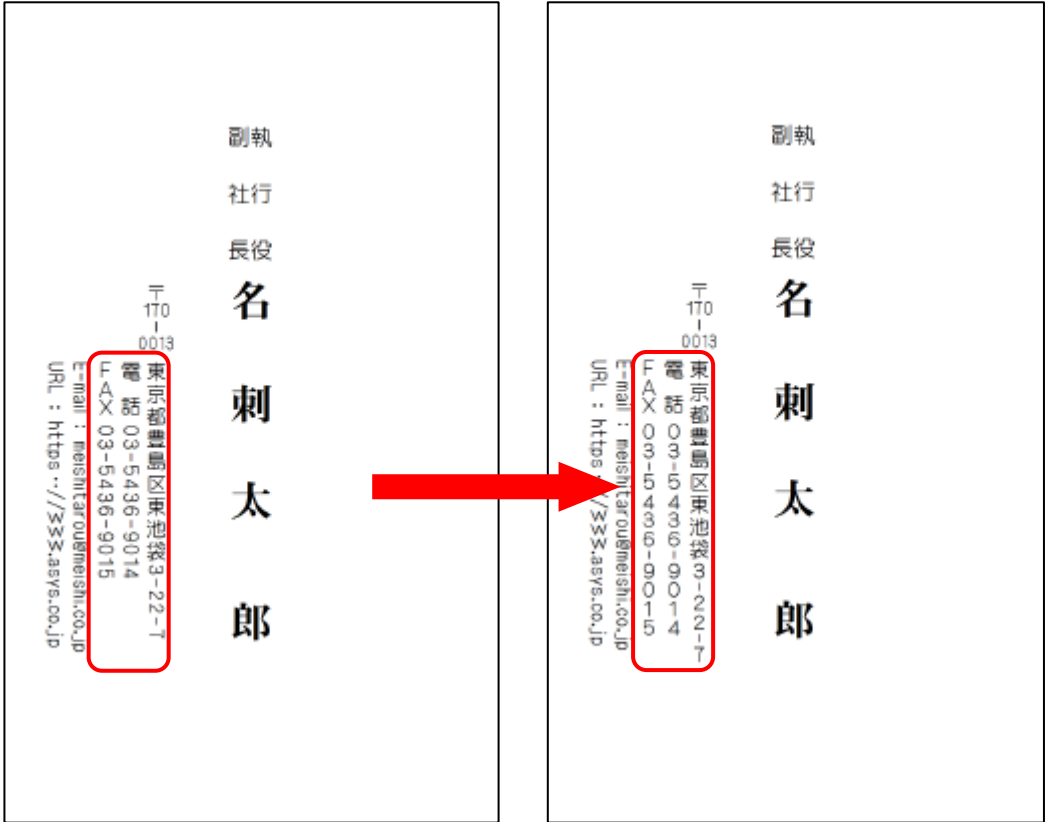
よくある質問



『TEL/FAX1-2』に入力がない場合、『TEL/FAX1-1』が右端まで移動しました。  
左揃えの場合や、イメージ部品との組み合わせにおいても、これを応用すればだるま落としの設定が適用されます。

12-⑤. 縦型名刺の数字を縦書きで表示させる。

縦型の名刺の場合、半角数字を入力すると横向きに表示されてしまいます。



4  
よくある質問

住所名称 1		
郵便番号 1	170-0013	辞書
住所 1	東京都豊島区東池袋3-22-7	
2		
3		
TEL/FAX 1	03-5436-9014	2 03-5436-9015
4		5

→

住所名称 1		
郵便番号 1	170-0013	辞書
住所 1	東京都豊島区東池袋3-22-7	
2		
3		
TEL/FAX 1	03-5436-9014	2 03-5436-9015
4		5

DTF で、縦名刺の半角英数字を縦書きで表示させる設定はありません。

英数字を縦書きで表示させるためには、BizCard Pro の編集画面より、全角で入力を行ってください。

